

Architecture / Design / Education / International Exchange

NICHE

工学院大学建築学部同窓会誌

<http://niche-almuni.com>

ダイジェスト



2015 vol.38

祝 工学院大学 おめでとうございます!

25年度1級建築士
学校別合格者数ランキング3位
〈全国建築系学校約220校中〉



この人たちが
支えて
くれるんだ...



夢みる
シカくん



日建学院

1級建築士 合格実績
No.1

一級建築士 118,810人輩出
二級建築士 166,033人輩出

一級建築士 日建学院合格者総数118,810人/全国合格者総数216,722人、日建学院合格者占有率54.8%。一級建築士の半分以上が日建学院出身者です。合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材のみの方、及び無料の役務提供者は一切含まれておりません。*全国合格者総数は(財)建築技術教育普及センター発表試験結果データ(昭和55年~平成25年累計)です。

● 資格講座開講一覧 ●

- 1級建築士
- 2級建築士
- 構造設計1級建築士
- 宅地建物取引主任者
- その他多数

【縦書き】でも【横書き】でも、使うならやっぱり『オレンジ本』

試験会場持ち込み可



2014年版
紀伊國屋書店・ジュンク堂書店
販売数 No.1
※紀伊國屋書店PubLine、
ジュンク堂書店BIGNET調べ
(2013年11月~2014年10月)

「横書き」お買い上げの方にもれなく、特別プレゼント!! 建築士試験によく出る【主要法令「条文」アンダーライン集 協力:日建学院

全国47都道府県
建築士累計輩出数 28万人超!

日建学院

日建学院コールセンター 0120-243-229 日建学院 検索

株式会社建築資料研究社/日建学院 東京都豊島区池袋2-50-1 受付/AM10:00~PM5:00(土・日・祝日は除きます)



確認申請は 住宅性能評価センターへ 正確・迅速・丁寧な対応を、お約束します。

■ 事業内容

- 建築確認
- 住宅性能評価
- [フラット35]適合証明
- 住宅瑕疵担保責任保険検査
- 長期優良住宅
- 住宅省エネラベリング
- 低炭素住宅
- 省エネ住宅ポイント
- 建築物省エネルギー性能評価[BELS]

業務区域
日本全国

■ 代表取締役
田野邊 幸裕 工学院大学 昭和44年卒業

■ 本社：東京都新宿区新宿 1-7-1 新宿 171ビル3階
東京メトロ丸の内線 新宿御苑前駅 3番出口隣接
☎: 03-5367-8730(代表)

- 東北地区出張所：宮城県仙台市 ☎: 022-292-3051
- 北関東地区出張所：栃木県宇都宮市 ☎: 028-610-7140
- 中関東地区出張所：埼玉県さいたま市 ☎: 048-661-7711
- 東関東地区出張所：千葉県松戸市 ☎: 047-704-6151
- 西関東地区出張所：東京都町田市 ☎: 042-709-0420
- 関西地区出張所：大阪府大阪市 ☎: 06-6885-3670
- 山陰地区出張所：島根県出雲市 ☎: 0853-62-5931
- 中九州地区出張所：福岡県久留米市 ☎: 0942-36-6580
- 西九州地区出張所：長崎県佐世保市 ☎: 0956-42-5401
- 東九州地区出張所：宮崎県宮崎市 ☎: 0985-35-5547
- 南九州地区出張所：鹿児島県鹿児島市 ☎: 099-208-2400

※お近くの営業所から日本全国の申請ができます。

各地区所在地
事業のご案内

一級建築士を求めています!!

- 20代 - 40代の前半の方。審査の経験がなくてもOKです。設計経験者優遇
- 工学院大学卒業生の在籍者数：40名

☎ 03-5367-8770(坂元・宮田)までご連絡をお願いします。

採用情報



株式会社 住宅性能評価センター

www.seinouhyouka.co.jp

住宅性能評価センター 検索

建築学部同窓会は、現役学生の為の支援講座を開催しています。

卒業年の合格を目指す 2級建築士 工学院大学 アカデミックコース

建築士の基礎から実務まで、確実に実力を積み上げ、
合格へ導いてくれる学習です。

卒業年に一発合格を

step 1 一年生対象
インターネットによる自宅学習

1学年：準備講座 Web

建築のための数学
建築に必要な数学の知識取得を目的に学習(集合又はWeb)を行います。
■構造で使う数学(力のモーメント)
■法規で使う数学(天井高)など

構造 ①
建築に必要な力学について学習します。
■反力とは
■静定ラーメンなど

学習時間の目安
■期間 6月から3月
■回数 11回(90分)
■目安 2週間に1回(2時間)の学習
■同窓会特別支援価格：4,000円

step 2 二年生対象
インターネットによる自宅学習

2学年：基本講座 Web

構造 ②
建築構造の概要から建築材料までの内容を学習します。
■応力とは
■建築材料
木材・金属・コンクリートなど

法規
建築基準法の概要から建築制限などを学習します。
■建築士法と業法
■容積・高さ制限など

学習時間の目安
■期間 6月から3月
■回数 24回(90分)
■目安 1週間に1回(2時間)の学習
■同窓会特別支援価格：5,000円

step 3 三年生対象
インターネットによる自宅学習

3学年：実務講座 Web
(プレアカデミック)

計画
建築計画の各論から、建築設備などを学習します。
■住宅・集合住宅
■消火・防災設備など

施工
施工準備から、仕上げ工事までの内容を学習します。
■施工計画
■内装・断熱工事など

学習時間の目安
■期間 10月から3月
■回数 36回(90分)
■目安 1週間に1回(2時間)の学習
■同窓会特別支援価格：10,000円

step 4 四年生対象
インターネットによる自宅学習と、卒業設計提出前の10-11月に集中講義、及び卒業後の全国にある170校への遠学講座(210,000円税別)が含まれます。

4学年：2級問題解説講座 (アカデミック) 通学

受験準備力学
建築に必要な力学の断面の性質と応力についての基礎を学習します。
■断面の性質と応力
■静定トラスなど

受験準備法規
建築基準法の構成や用語から、基礎的な内容を学習します。
■基準法のしくみ
■高さ制限など

学習時間の目安
■期間 10月から3月
■回数 14回(90分)
■目安 1週間に2回(2時間)の学習

2級問題解説講座
4科目の総まとめと本試験と同様の模擬試験を行います。
■各科目のまとめ
■模擬試験と全国統一模擬試験など
卒業した後の通い講座も含まれます。

3月から最寄りの日建学院へ
※通学で弱点補強を行い、合格へと導きます。
■同窓会特別支援価格：36,000円
(Web 講座+大学における講義+卒業後の遠学講座を含む)

※講座内容は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

講座に関するお問合せ 日建学院コールセンター ☎0120-243-229 株式会社建築資料研究社 東京都豊島区池袋2-50-1

同窓会に関するお問合せ 工学院大学建築学部 鈴木研究室 Tel.03-3342-1211(代)

26年度 1級建築士合格学校別ランキング7位 <全国建築系学校約220校中>

学部卒業年度に2級建築士になることは
1級建築士合格に断然有利!

この講座は、工学院大学の授業進行に合わせて、**建築に必要な「建築のための数学」や「力学の基礎」から、毎年<1年生から受講可>**、少しずつ知識を習得できるよう無理のない学習プログラムになっています。この講座を受講して、卒業年に2級建築士学科試験の一発合格を目指しましょう。これが最も早く、1級建築士合格につながることであります。

※26年度については沖縄県会場が台風の影響により実施を取り止めた為、2月26日以降発表予定。

申し込みは、同窓会ホームページ(<http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku/>)にて必要手続きが簡単にできます。

〈主催〉工学院大学 建築学部 同窓会

諸先輩方につづけ!!

過去、この講座を受講して**2級建築士に合格(受験合格率66%)した先輩方**のうち、**1級建築士合格者の平均合格率は60%**<25年度総合合格率12.7%>です。

インテリアコーディネーター講座

未来のために「今」できることを考える!

皆さんは、日々知識の習得に励み、アルバイトや仲間との交流を通じて、「今」しかできない、貴重な経験を重ねていることと思います。学生時代は、そうした貴重な経験や体験ができる場であると同時に、近い将来、自分が進む道を方向づける場でもあります。インテリアコーディネーターは、建築・不動産業界での仕事に生きる資格であるだけでなく、資格にチャレンジする過程で得る知識は、実務に就いた時に必ずや皆さんの助けとなるでしょう。また、就活に於いて有利な立場に立てることは言うまでもありません。

自分自身の未来のために、学生である「今」できることにチャレンジしませんか。

①就活に役立つ!

皆さんの人間性や個性を面接だけで企業側に伝えることはなかなか難しいですよね。目指す企業に就職するために、企業研究やOB訪問をし、面接準備を進めるのが一般的な就活対策ですが、その他にも**自身の能力や強みを分かりやすく企業側に伝えることができるのが「資格」**です。「資格」はそれ自身が価値のあるものですが、就活において資格は**「目標に向けて努力をし、結果を出した人物」として評価**されます。「住」に関する多くの業界で活かせる資格です。

②知識が生涯の財産に!

建築・住宅・インテリア関連の仕事に従事している方でも、インテリアを基礎からしっかり学んだという方は意外に多くありません。**受験対策を通じて得る知識は、必ず実務で役に立ちます。**しっかりした知識・教養に裏打ちされたスキルは、**生涯を通じて皆さんの大きな財産**となります。比較的時間に余裕のある「今」こそチャレンジに最適なタイミングです。

より受講しやすく、より理解しやすい講座へリニューアル

| 日程 | 学習内容 |
|-----------|--|
| 6月7日(日) | オリエンテーション【第3章】インテリアの歴史【第4章】インテリアコーディネーションの計画① |
| 6月14日(日) | 【第4章】インテリアコーディネーションの計画②③ |
| 6月21日(日) | 【第6章】インテリアの構造・構法と仕上げ①② |
| 6月28日(日) | 【第6章】インテリアの構造・構法と仕上げ③④ |
| 8月6日(木) | 【第7章】環境と設備①② |
| 8月27日(木) | 【第7章】環境と設備③④ |
| 8月30日(日) | 模擬試験1 |
| 9月6日(日) | 【第5章】インテリアエレメント・関連エレメント①②③ |
| 9月20日(日) | 【第2章】Iの仕事【第8章】インテリアコーディネーションと表現技法【第9章】インテリア関連の法規・規格・制度 |
| 9月27日(日) | 模擬試験2 |
| 10月4日(日) | 答案講義1 答案講義2 |
| 10月11日(日) | インテリアコーディネーター1次試験(予定) |

※講座日程および学習カリキュラムについては、変更を行う場合があります。

受講料・連続受講割引

■開講:6/7(日)
■場所:工学院大学 新宿キャンパス

講座風景



お申し込みは、同窓会ホームページ(<http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku/>)にて簡単に手続きができます。

〈主催〉工学院大学 建築系学科 同窓会



09



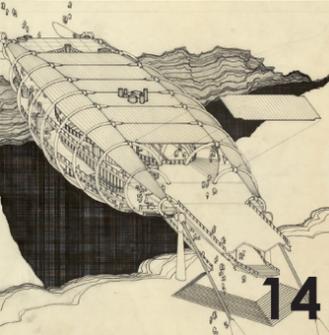
11



12



13



14

6 同窓会より

| | | |
|-----|--------------|-------|
| 巻頭言 | NICHE Topics | 新刊書紹介 |
| 6 | 8 | 10 |

12 特集 台湾建築探訪！

| | | | |
|----------------------|-------------------------------------|--------------------------|---|
| 特集1 台湾のフジモ リ建築 | Interview 藤森照信先生 台湾の茶室を 語る | 特集2 知られざる梅澤 捨次郎の仕事 | 寄稿 林百貨の新装開 店にみる、私の 工手学校研究の 回想 |
| 12 | 14 | 16 | 20 |

24 NICHE PASSPORT

| | | |
|----------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| アジア3国 を巡って | 北欧の光 と建築 | 伝統と消費が 混在するタイ ・バンコク |
| 天貝 悠 | 河邊 真 | 須貝 孝太 |
| 26 | 28 | 30 |
| 東西で分断さ れた都市ドイ ツ・ベルリン | 自分と社会と建 築の距離を知る ヨーロッパの旅 | スイスのピータ ー・ズントーの 建築を訪ねて |
| 木名瀬 新 | 安齋 智史 | 渡辺 隼 |
| 32 | 34 | 36 |

38 NICHE LETTER

| |
|-------------------------|
| 千葉学建築 計画事務所 時代の仕事 |
| 森 元気 |

40 NICHE GALLERY

| |
|---------------|
| 雑景ブリコ ラージュ |
| 佐藤 浩介 |

NICHE mookとダイジェスト

2014年より、工学院大学建築学部同窓会誌NICHEは2冊に分かれました。一つは海外取材に基づく特集記事と連載を中心としたムック本、「NICHE mook」です。建築とデザインの学際的な架け橋として、同窓会費や寄付金をお支払頂いた方にお送りするほか、アマゾンや工学院大学生協で販売しています。もう一つは広報誌「NICHEダイジェスト」です。ムックから抜粋した記事と本学に特化した内容を掲載し、同窓生や本学関係者に無料で配布します。



16



18



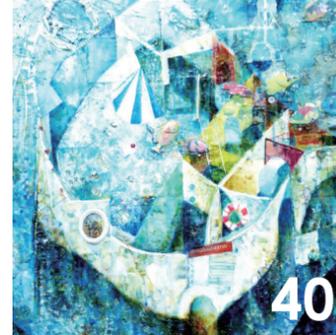
19



30



38



40

NICHE mook 02

好評発売中

アマゾン、工学院大学生協から
お問い合わせいただけます。



NICHE mook 02
特集 台湾建築探訪！
台湾のフジモリ建築
知られざる梅澤捨次郎の仕事
2015年3月31日第1刷発行
248ページ永久保存版
特集163ページ、日台バイリンガル
定価：本体1,800円＋税

特集：台湾建築探訪！

6 特集1 台湾のフジモリ建築

| | |
|-----------------------------|---------------|
| 9 Interview 藤森照信先生 台湾の茶室を語る | 28 森文茶室 |
| 14 藤森建築 5題 | 34 老董軒 |
| 入川亭 | 40 望北茶亭 |
| 22 忘茶舟 | 46 藤森照信という回転体 |

56 特集2 知られざる梅澤捨次郎の仕事

| | |
|--------------------------------|---|
| 58 82年目の復活「林百貨」 | 86 台中師範学校本館 |
| 64 寄稿 林百貨の新装開店にみる、私の工手学校研究の回想 | 90 台南警察署 |
| 70 寄稿 台湾の都市の近代化を進めた林百貨 | 94 林百貨 |
| 76 Interview 林方一の家族が語る林百貨店の思い出 | 98 専売局新竹支局 |
| 80 Interview 孫夫婦から見た梅澤捨次郎 | 104 松山煙草工場 |
| 82 梅澤作品 6題 | 110 再録 梅澤捨次郎の台湾での活躍 |
| 台中医院病棟 | 122 column 書籍紹介「専売局松山煙草工場：歴史建築図録 1937-1942」 |

124 特集3 台湾現代建築マップ

| | |
|------------------------------------|--|
| 126 台北 | 133 臺灣大学社会科学院 景美人權文化園區 |
| 127 臺北市圖書館北投分館 法鼓山農禪寺水月道場 | 134 台中 |
| 128 故宮晶華 臺北市立美術館 | 135 臺中大都會歌劇院 |
| 129 臺北國際花卉博覽會原民風味館 臺北國際花卉博覽會遠東環生方舟 | 136 宮原眼科 國立公共資訊圖書館 |
| 130 臺北國際花卉博覽會舞蝶館 臺北國際花卉博覽會休憩區 | 137 亞州大學現代美術館 台豐高爾夫球場 |
| 131 臺灣基督長老教會大稻埕教會 松山文化創意園區 | 138 宜蘭 蘭陽博物館 |
| 132 台北車站 臺北 101 | 140 礁溪鄉公所 礁溪生活學習館 |
| | 141 宜蘭縣二二八紀念空間 羅東文化工場 |
| | 142 column 展覧会レポート世界のこども椅子展 & 宜蘭椅子設計大賞 |

146 特集4 台湾の近代建築2題

| |
|----------------------------------|
| 148 Interview シスター・ローズサンにインタビュー |
| 150 聖心女子高級中学（新北市、丹下健三） |
| 158 東海大学キャンパス、チャペル（台中、陳其寬、IM ほか） |

特別企画

164 アントニン&ノエミ・レーモンドのトータルデザイン

| | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 166 はじめに アントニン&ノエミ・レーモンドが目指したもの | 208 食卓椅子 |
| 170 軽井沢新スタジオ | 210 ペンダントライト |
| 180 レーモンドをめぐる対談 島崎信x北澤興一 | 212 ベッドカウチ |
| 190 軽井沢新スタジオのトータルデザイン的全貌 | 214 三角椅子 |
| 192 建築 外構・庭 | 216 イージーチェア |
| 194 インテリア 家具 テキスタイル | 218 肘掛け椅子 |
| 196 絵画 陶芸 イラスト | 220 丸椅子 い草編み丸椅子 |
| 198 ノエミのテキスタイル 手すき和紙 い草編み | 222 い草編みベンチ |
| 202 ノエミの家具プロダクト | 224 長椅子 |
| 204 暖炉用具 | 226 レーモンドに関する12の質問と北澤さんの回答 |
| 206 ミスター愛用の椅子 | 229 おわりに 後世に伝えるべきもの |

連載企画

230 近代建築を支えた建築家の系譜

| |
|---|
| 231 輝かしき先輩たち⑩ 松田登三郎 |
| 236 技術の伝道者 田中豊太郎 |
| 242 戦前における工手学校卒業生の海外活動 - 江原節郎の台湾での活躍を例に |

巻頭言

2015年3月、今年も街中の桜が咲く季節がやって来た。この春に工学院大学建築学科を卒業する諸君は、どんな決意を胸に新宿キャンパスを離れるのだろうか。そして、かつてこの大学で学んだ卒業生は、どのように本学を思い出すのだろうか。この学び舎で過ごした日々を糧に、大きく世界にはばたくことを祈っている。しかし社会に出ると予想しない出来事に直面する事があるだろう。そんな時は、迷わず工学院大学に立ち寄りてほしい。その時間すらないときは、ぜひNICHEを開いてほしい。4月にはNICHEの38年間の全バックナンバーをホームページ上で公開する予定である。

(<http://niche-almuni.com>)

海外への好奇心と、学びを還元する力

一年前、「大学の知的資源やネットワークを生かして社会に貢献する」という理念を掲げ、同窓会誌NICHEを配布用のダイジェスト版と、書籍のムック版に分けた。前者には卒業後の校友の仕事ぶりや、海外渡航奨励金制度を用

いて海外を巡った在学生のレポートを載せ、後者ではイギリスで展開するハイブリッド留学や、イタリア・ミラノ工科大学との国際交流について伝えた。世界は目まぐるしく動いているが、建築とデザインと教育事情には常に通底するものがある。それは海外に対する飽くなき好奇心と、見聞きしたものを還元しようとする力である。本学を創設した渡邊洪基先生はイタリアに働き、東京駅を造った辰野金吾先生はイギリスに学んだ時期があった。そしてその成果を工手学校、つまり当時の工学院大学で教えたのである。

梅澤捨次郎、再び

その時学んだ学生の中に、梅澤捨次郎という男がいた。その名を知る人は少ない。1911年に卒業し、台湾に渡って多くの建物を建てた建築家だ。本年は「台湾建築探訪」と銘打ち、二つの特集を組んだ。一つは「知られざる梅澤捨次郎の仕事」と題し、台湾中の彼の建築に焦点を当てた。今でも彼が日本統治時代に関わった建物は台湾で大事にされている。彼の仕

事を追って調査を続けているうちに、折しも、梅澤捨次郎が台南に設計した林百貨店がリニューアルオープンした。台湾中のメディアが詰めかける中、私は同窓会の代表として開幕式に招待された。そして同様に日本から駆けつけた、梅澤捨次郎の孫夫婦と、林百貨店を創った林方一の子孫と知り合った。82年ぶりに甦った百貨店は多くの人々で賑わっていた。ファサードからディティールに至るまで、丁寧で気持ちの良い仕上がりを見て、後輩として実に誇らしい出来事だった。

帰国後、私は福岡で梅澤家のご家族を訪ねた。かつて学生時代に、今は亡き伊藤ていじ先生に「まずは仁義を切れ」と教わったからである。その「建築家の研究をするなら、その人のお墓参りをせよ」という教えを守り、梅澤先生のお墓に手を合わせた。今回、梅澤捨次郎の生涯を解き明かすことができたのは、一重に台湾と日本の多くの関係者のご協力と、各大学の研究者ネットワークの賜物である。

進化するフジモリ建築

もう一つの特集は「台湾のフジモリ建築」である。今なお忙しい藤森照信先生を台湾に追いかけて、最新の仕事を網羅した。暑い夏に風光明媚なお茶室でいただく中国茶の味は格別であった。そして寒い冬に長野の雪の中でよじ登った高過庵でいただいた抹茶は美味しかった。建築を続けるには体力が必要だと実感した。なんと、藤森先生は今、台湾で卒業設計を実現しようとしている。いつまでも夢を追い続ける姿勢を我々も見習おうではないか。歴史学を学ぶことで、どこにもない新しい建築が生まれる。それはパラドックスに思えるかもしれない。しかし長い時間の蓄積が、次のブレークスルーを生むのだ。

軽井沢新スタジオ

特別企画「アントニン&ノエミ・レーモンドのトータルデザイン」では「軽井沢新スタジオ」を徹底解剖した。北澤興一氏は工学院大学を1961年に卒業し、レーモンド事務所に務めた。選ばれた所員は毎年夏のひと月を軽井沢で

過ごした。チェコ生まれのレーモンドはアメリカでフランク・ロイド・ライトに出会い、帝国ホテルの設計を手伝いに来日した。その後、独立したレーモンドの創作の源泉は日本の伝統的家屋だった。北澤氏がレーモンド夫妻から譲り受けたスタジオは実に素晴らしい。夫人のノエミが手掛けた家具とインテリアデザインの詳細な報告は本邦初公開である。新しい建築学部で学ぶべきトータルデザイン、つまりインテリアとプロダクトと建築の総合芸術の傑作だと言えよう。北澤氏は今回、後輩のため、母校のため、ひいては建築界のために、コレクションを公開してくれた。

大学という学び舎は知的資源の宝庫である。そして言語と国境を越えた人的ネットワークこそ、未来への力を育む。大学で切磋琢磨した仲間たちと共に手を携え、新しい未来を切り拓いていこう。

「NICHE mook」編集長
鈴木敏彦



鈴木敏彦 Toshihiko Suzuki

建築家・デザイナー

1958年東京生まれ。工学院大学建築学科修士課程修了。黒川紀章建築都市設計事務所、フランス新都市開発公社 EPAmame、早稲田大学建築学専攻博士課程を経て、1999-2007年東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科助教授、2007-2010年首都大学東京システムデザイン学部准教授、2010-2011年工学院大学工学部建築都市デザイン学科教授。2011年より工学院大学建築学部建築学科教授。

北欧建築・デザイン協会理事。日本インテリア学会理事。

グッドデザイン賞/中小企業庁長官賞、アジアデザイン大賞/グランプリ、レクサスデザインアワード 2012、iFデザインアワード 2014 他受賞多数。

著書に、『世界で一番美しい建築デザインの教科書』（エクスマレッジ）、『北欧の巨匠に学ぶ図法 家具・インテリア・建築のデザイン基礎』（彰国社）、『北欧の巨匠に学ぶデザインアスブルンド/アールト/ヤコブセン』（彰国社）、『建築プロダクトデザイン/暮らしを劇的に変えるモノと空間の設計思想』（講談社）、『ヤコブセンの建築とデザイン』（TOTO出版）などがある。

NICHE Topics

2014年度の話題

2 SDレビュー 2014入賞

「雄勝桑浜小再生プロジェクト」岩崎修(1992年卒業、オンデザインパートナーズ)+西田司+勝邦義

宮城県石巻市の大正時代に建てられた旧桑浜小学校は東日本大震災で半壊した。土砂を取り除き、改修して新たな自然体験学校として再生させる。



「公園墓地の管理棟」浦俊弥(2001年修了、日建設計)+渡部良平(2008年修了、渡部良平環境設計事務所)

埼玉県所沢市の所沢聖地霊園の管理等は築40年が経ち老朽化が進んでいた。1365平米の管理事務所棟をバリアフリーの平屋に建て替え、風景との調和をはかった。



1 「家づくり学校」が 日本建築学会の教育 賞受賞

半田雅俊先生(1973年卒)が副校長を務める「家づくり学校」は、大学を卒業して事務所や工務店で働く若手の設計者を対象に、良質な住宅設計を教える4年制の学校だ。すでに卒業生が多くを受賞を重ねており、教育プログラムの有効性と社会貢献度が評価され、日本建築学会教育賞を受賞した。



工学院大学、家づくりの会共催「家づくり学校」生徒募集

実際に住宅を設計する際には、大学では学び得ない知識が必要だ。本学新宿校舎にて開講する「家づくり学校」で、施主や施工者に寄り添う現実的なアプローチを学んでみよう。設計事務所に勤務する社会人だけでなく、住宅設計に興味がある学生を歓迎する。1年目は座学、2年目は見学会、3年目は演習課題、4年目は建築家のスタジオで学ぶ。

- 【主催】 NPO法人家づくりの会
- 【校長】 泉幸甫(日本大学教授、建築家)
- 【副校長】 半田雅俊(本校卒業、本校非常勤講師、建築家)、川口通正(本校非常勤講師、建築家)、諸角敬(本校非常勤講師、建築家)、本間至(日本大学非常勤講師、建築家)、山本成一郎(東洋大学非常勤講師、建築家)
- 【対象者】 建築家を目指す若い設計者や学生
- 【開催地】 1年、3年の授業は工学院大学新宿校舎
- 【締め切り】 4月中旬

<http://npo-iezukurinokai.jp/about/gakkou/>

3 神宮外苑24時間 チャレンジにて優勝

本学卒業生の青谷瑞紀(日建設計)が2014年11月8日、第9回神宮外苑24時間チャレンジの女子の部で223.989kmを走り優勝した。男女総合11位だった。青谷は数々の大会で優勝を重ねている。2015年世界選手権トリノ大会では日本代表として走る。

5 国際切手展2014 「フィラコリア」 にて金銀賞

2014年8月7~13日に韓国ソウルで開催の世界切手展「PHILAKOREA2014」にて、本学卒業生の大場光博(NICHE元編集長)のコレクション「U.S.P.A. in Shanghai 1802~1922」が金銀賞を受賞した。中国の郵政の歴史と海外列強との交流が切手から伺える。

1922(3 JUL.) Shanghai Local Typography Surcharge



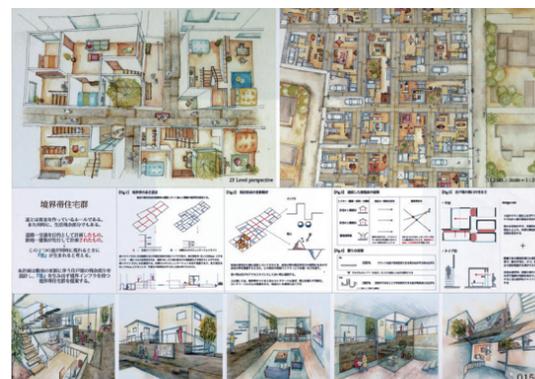
2c. on 1c. green.



4c. on 2c. carmine.

4 第10回 ダイワハウス コンペティション

「径の生まれる街」車の通行を前提とした既存の道路に対し、人や建築に寄り添う「径」の在り方を問うコンペ。鈴木甫(2014年修了、大和ハウス工業)が「境界帯住宅群」にて佳作に入賞した。住宅区画の境界に近隣住民とのコミュニケーション用の路地をつくる。



6 世界児童椅 & 宜蘭椅特展

建築学科教授の鈴木敏彦先生が、台湾の「世界児童椅&宜蘭椅特展」に招かれ、キーノートスピーチを行った。宜蘭県が主催する子供用の椅子の国際デザインコンテストを勝ち抜いた作品を踏まえ、地元の素材と機能性をテーマに次世代のデザインを語った。また、フェリックス柄の「建築家具キッズ」と切り株のようにLVLを積層した「スタンプチェア」を展示した。



7 「第16回プレミオ・ コンパッソ・ボラン テ」入賞

2014年10月4日、本学協定校であるミラノ工科大学にて国際設計コンペの結果が発表となり、大学院建築学専攻修士の安齋智史、井野裕也、田中和希チームが佳作に入賞した。再生エネルギーを活用した複合ビルの設計案で空間の質の高さが評価された。鈴木敏彦先生と9名の院生はイタリアにて最後のワークショップに参加し、同世代の建築学生と交流を深めた。



新刊書紹介

同窓生や建築学部の教員など関係者が執筆した新刊書の一部を紹介する。

近代建築は何を創ったか

生活の場の芸術としての建築



樋口清
(工学院大学元講師)

中央公論美術出版
199ページ
2,800円+税
2014年6月10日

御年96歳の樋口先生の聡明で美しい文体が印象的だ。巻頭のヴァーグナーやアスブルンドの作品解説には、スライド上映の講演会に居合わせたような臨場感がある。後半は遠藤新、吉田鉄郎、天野太郎、武藤章、レーモンドが成し得たことをライトと比較して論じた。コルビュジェやライトの翻訳に関する2010年NICHE掲載のエッセイも再録。戦後の日本建築の成り立ちに造詣が深くなる一冊。

世界で一番美しい宮殿



中島智章 (工学院大学准教授)

エクスナレッジ
156ページ
1,800円+税
2014年12月1日

ベルサイユ、シェーンブルンといったメジャー級からインドやルーマニアまで32の豪華絢爛な宮殿の写真集。ひとつの建築につき5~8枚の珠玉のカットがハイライトを網羅する。王族のための空間とは色彩と質感の密度と歴史的な脈の重奏で作られるのか。彫刻と絵画と金銀の細密装飾が奥行きを満たす。自分の旅の記憶を探ったり、新たな旅先を選んだりするのに最適だ。

谷口宗彦最終講義

工学院大学に在籍した49年間の全てを語る



谷口宗彦、他

谷口先生記念出版会
ATELIER OPA
244ページ
1,800円+税
2014年7月27日

学生、講師、教授として真摯に建築に挑んだ谷口先生の激動の記録史。国内外コンペに徹夜を重ねた助手時代、学校や博物館の公共建築から高齢者や障害者向け住宅の設計に至る今日までを豊富な図面と写真と文章で解説。新宿の超高層キャンパスが完成するまでの下りは圧巻。バブル崩壊後の施工費の高騰、各学科のゾーニングなど数々の難問を切り抜ける手腕と責任感は尊敬に値する。

いえ 団地 まち

公団住宅 設計計画史



木下庸子、植田実 (編著)

ラトルズ
540ページ
3,000円+税
2014年2月25日

木下先生がUR都市機構の都市デザインチームリーダーに就任して以来の研究成果を、「団地の歩き方」と称し、「お弁当サイズ」で上梓した。前身の日本住宅公団が1955年から建てた150万戸のうち、配置計画に焦点をあて55の団地を本書に収録。団地が象徴する安心感と画一性、そして独自の個性と多様性を設計から読み解く。団地マニアでなくとも巻末の年表と用語集は必読。

建築21世紀はこれからだ

編集者・写真家三〇〇年の視点



馬場璋造、寺松康裕、類洲環、中谷正人、神子久忠、松岡満男、小林浩志

スパイラル
209ページ
1,800円+税
2013年1月31日

新建築を編集した7人が近代建築のあり方から建築写真の撮り方まで説いた。NICHEに連載を持つ類洲環氏は、建築の保存について説く。いわく、建物を論じる一般人には愛がない、建築史家による古びた建物の保存運動は八百長である、建築学会賞を受賞しても建物は壊される。ならば夢を大きく持って世界遺産登録される建築を設計しよう、と読者を鼓舞する。建築愛が伝わる一冊。

世界で一番美しい名作住宅の解剖図鑑

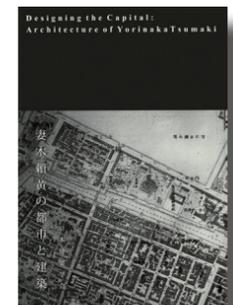


中山繁信 (工学系研究科元教授)、松下希和、伊藤茉莉子、齋藤玲香

エクスナレッジ
156ページ
1,800円+税
2014年4月28日

中山先生の世界で一番シリーズの第5弾。日本と世界の名作住宅50軒を、外観と内観のスケッチパースと解説で解く。オールカラーの美しいイラストは建物を理解するのに役立つだけでなく、建築の学生なら描画テクニックを真似たいところ。メキシコのバラガン邸やアメリカのイームズ自邸から、トルコやアイスランドのパナキュラー建築まで、世界各地に心がはばたく良書。

妻木頼黄の都市と建築



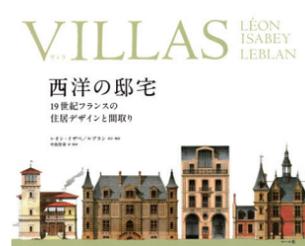
日本建築学会

日本建築学会
126ページ
1,200円+税
2014年4月10日

明治建築界の三大巨匠の一人であるが、これまで妻木頼黄に光が当たるとは少なく、むしろ辰野金吾のライバルとして記されることが多かったように思う。2014年開催の同名の展覧会では妻木の生涯と建築作品が明らかになった。工手学校の設立と運営で妻木が発揮した手腕と、ベルギーのリエージュ博覧会で妻木設計の横浜正金銀行がメダルに輝いたことを中島先生が記している。

VILLAS 西洋の邸宅

19世紀フランスの住居デザインと関わり



中島智章 (工学院大学准教授)、レオン・イザベ、ルブラン

マール社
128ページ
1,800円+税
2014年7月18日

中島先生が監修し翻訳した55軒の住宅カタログ。19世紀の読者はこの本を住宅カタログ代わりに眺めて、自分の土地に建てる家のファサードや設計を考えた。しかし21世紀の読者はこの本を参考に、漫画やゲームの作品の中で描く家を考えている。読者層を建築関係者からCGアニメ関係者にまで広げた点が画期的だ。古典の色褪せない魅力を建築用語からひもといている。

住宅・インテリアの教科書

世界の巨匠に学ぶ建築デザインの基本



鈴木敏彦、松下希和、中山繁信

エクスナレッジ
295ページ
1,800円+税
2014年10月29日

20世紀のモダニズムを率いた7人の巨匠を取り上げ、家具、インテリア、建築、都市を横断する視点を学ぶ。1867年生まれのライトから、ミース、コルビュジェ、リートフェルト、アアルト、ブルーヴェと続き、1902年生まれのヤコブセンまで、住宅建築とデザインのポイントを見開き2ページでごとに明快に図示している。すっきりしたレイアウトで読みやすい、単行本サイズの愛読版。

日本発 農業のある都市モデル

—地域共存型農業による安全快適福祉都市—

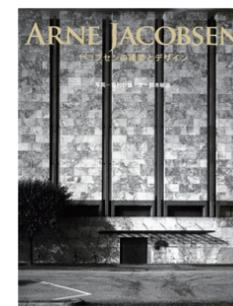


東正則 (工学系研究科元教授)

農林統計出版
147ページ
2,000円+税
2014年4月8日

高度経済成長期に大都市近郊を宅地化して都市化が進んだ。しかし都市計画法は現状に即さないと東先生は説く。環境共生都市では農作業を通じた生きがいや、食糧の確保が重要だ。農園緑地は避難空地となり将来的には公園に転換できる。地域に根差したクラブ型農業こそ住民のコミュニケーションの場となる。日本の新しい都市モデルが世界の都市のスプロール化に一石を投じる。

ヤコブセンの建築とデザイン



鈴木敏彦 (工学院大学教授)、吉村行雄 (写真)

TOTO出版
327ページ
4,600円+税
2014年6月20日

21世紀の北欧モダニズムの巨匠、アルネ・ヤコブセン。鈴木先生はデンマーク取材を重ね、建築、インテリア、プロダクトのトータルデザインを解明した。全カラー頁の撮り下ろし写真で階段や手すりの優雅な曲線や、巧みな勾配屋根の設計に迫る。1927年のデビュー作「未来の家」から1961年の遺作「デンマーク国立銀行」に至るまで、植物を愛し、細かく植栽を指定した設計図は必見。

特集 1

台湾のフジ モリ建築

藤森照信先生は東京大学を退官した後、2010年から2014年に工学院大学で教鞭を執った。この4年間に藤森先生は台湾で5つの茶室を手がけている。自由闊達なデザイン、縦横無尽な活躍、無邪気な笑顔の秘密を探りに、藤森先生を追いかけた。この取材で必要なのは、高いはしごを登る勇気と、揺れる茶室を楽しむ感覚だった。藤森先生にお茶をご馳走になるうちに、子供の頃に友達の秘密基地を訪ねてワイワイと話していた感じがよみがえった。



2015年2月15日、故郷の長野県茅野市に藤森先生を訪ねた。台湾に足繫く通ういきさつと、茶室の設計について伺った



入川亭



忘茶舟



森文茶室



老董軒

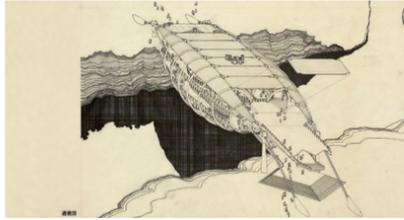


望北茶亭



森文茶室

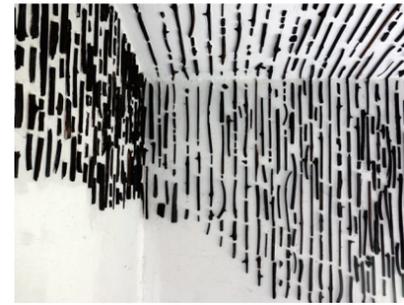
Interview 藤森照信先生 台湾の茶室を 語る



1971年藤森照信 東北大学の卒業設計
「橋 幻視によってイメージのリアリティを得るルドー氏の方法」



焼き杉



茶室の天井や壁面を覆う竹の炭



鉄骨をカバーする竹の納まり



老董軒の檜

台湾で設計するいきさつ

建築史家としては40年ぐらい台湾と付き合いがある。台湾の近代建築史研究の中核をになう人は、ほとんどが僕の東京大学時代の留学生のOB。中原大学建築学系の副教授をしている黄俊銘さんとは、日本時代の建築の系統を調べて一緒に歩いた。

たまたま第10回ベネチア・ビエンナーレ建築展帰国展（藤森建築と路上観察）を見た人が、僕に茶室の設計を頼みに来た。台湾では中国茶、煎茶が盛ん。味へのこだわりがものすごいけれど、台湾には茶室がない。日本の茶道は抹茶。台湾とは正反対で、お茶の味よりも茶碗ほかの茶道具や掛け軸や花にこだわりがある。彼らが台湾の文化的なアイデンティティを求めていたので、茶室を作れないか考えた。しかし日本の茶室と同じというわけにはいかない。台湾を見て歩いて、全然日本と違うことにびっくりして、興味を持って作ったのが入川亭と忘茶舟。

その後、台湾で茶室の講演会を行った折に、華山1914文創園區の運営会社の社長に茶室を依頼された。それが森文茶庵と、望北茶亭。この二つを作っている最中に、宜蘭へ卒業設計展の審査員で行った。宜蘭県は山の東側にあり、西側の台北に対してものすごく対抗心がある。原住民の独特の文化と気位があり、温泉リゾートと農業が盛んで、本当においしいネギなどが取れる。お茶も取れる

が、台北と同じ坪林茶の名前で出している。地元のお茶でなんとかやりたい、という文化局長の林秋芳さんの依頼で作ったのが老董軒。現在、台東で空中に一軒の家を吊りたいという希望があって、来年の初めの完成に向けて工事している。卒業制作の実現になる。

入川亭

登るのが怖いという人がいるけれど、超高層（28階建）の上で工学院大学をやっていることを思えば、なんてことないよ。5本の竹が漢字の入川と読めると言われて命名した。

巨竹という世界最大の竹があることを、台湾の人もほとんど知らない。歴史家だった時代に、向こうの知り合いが「直径1mの竹が台湾にある」と言う。そんなのがあったら風呂桶として知られているはずだ。黄俊銘さんと見に行ったら、直径1mではなく円周1mだった。でも直径30センチで馬鹿でかい。戦後、台湾の竹産業に使えると思って政治家がマダガスカルから持って帰った。ところが全然用途がなくて、しょうがなしに使ったのが日本用メンマ。中国人は固いメンマは食べないが、日本人は歯ごたえがないと。これを建築に使った人はいない。それでやってみた。後でひび割れて雨が入らないように、竹にニスを塗った。また、腐らないように、竹に穴を掘って樟脳の白っぽい粉を少し入れている。楠は台湾の大産業だった。この時、

合わせて忘茶舟を作った。

森文茶室

作ってから、建物の上に吊り上げた。屋上に置くには政府の許可がいる。華山1914文創園區は歴史的建物を再利用しているから、どこも手を加えてはいけない。そこで50センチ位のH型鋼を置いてその上に施工し、いつでも茶室がはずせるようにした。基本は4畳半の茶室。

台湾ではお茶をテーブルで飲む。日本でもテーブルを用いた立礼の茶室があるが、雰囲気は妙だ。茶室の良さとは、広い畳の上に茶器をぽっとおくところ。そこで、4畳半のほとんどに巨大なテーブルを置いて、両側に座る場所を設けた。片側に炉を作り、水盤を置いて、花と火の場所を作った。ここでも柱に巨竹を使った。雨戸を外に張り出し、完全に扉を開け放す仕様にした。ただ、やってみたら、思いもよらぬことが起きた。日本では人は庭に入らないのに、ここでは人が庭に立って茶室の中に顔を出す。屋台に寄った感じで、自由なコミュニケーションを取る。それがおかしかった。

外壁にはバクテリアの繁殖を防ぎ、湿度に強い焼き杉を使った。外を炭で覆って、中も炭にしようと、天井には竹の炭を使った。台湾は雨が多いので、雨だれの感じで、焼いた竹を打ちつけた。でも危険な構法なので、その後はオーストラリアで試みた別の方法で仕上げている。構法は少しずつ進歩している。

望北茶亭

最初、空中に吊る予定だったが、どうしても支柱となる巨竹の強度を確認できなかった。鉄骨やコンクリートと違い、自然素材は強度の個性がありすぎる。日本の檜は育ち方で3倍ぐらい違う。竹の節は強いが、どこを測るかが難しい。耐久性もわからない。ということで、設置式にした。華山1914文創園區は国の施設なので、国の許可が必要で、歴史的なところに手をつけられないという制約があり、結構大変だった。現地へ行き、環境との調和を考えた。目立ってほしくないけれど、周りの雰囲気を壊してはいけない。その辺りに一番気をつけた。竹の中には鉄骨を入れた。モダニズムでは構造表現主義を理想として、構造を隠すのをすごく嫌がった。構造を見せ、なおかつ美しく作るのは素晴らしい考えだけど、現代では耐震、耐火、構造の点から、僕のように自然素材を使おうと思ったら無理。偽物の持っているいやらしさ、薄っぺらさが出ないように注意している。

老董軒

老董とは地名の羅東の現地語で、老いた猿を意味する。吊る作品を作りたいだったが、初めてだし不安があった。吊る茶室と、地上の茶室と二案を提出した。茶室は美術品扱いなので、日本でも台湾でも建築基準法の適用外になる。一般的に安全を考えると、審査会で落ちる可能性があった。また、吊るには羅東文化工場

を設計した建築家の許可がいる。旧知の黄馨遠さんは、とても面白くて魅力的な人で、僕の作品を知っていて「藤森さんだったらいい」と言ってくれた。審査員は行政の人ではなくて芸術家たちで、皆「こっちが面白い」と言って実施することになった。

たいていの行政は市民が参加することを好ましく考えている。老董軒では上にいくほど透けるように檜を張った。市民と一緒に作って、けっこう面白かった。地上で作ってから吊り上げた。

現場で材料を調達する

台湾には阿里山と宜蘭という檜の2大産地がある。しかし木を切ることは犯罪である、というエコロジー思想から林業は禁止されている。日本時代に植林した檜はひよろひよろ伸びていて間伐しないと大変なことになる。しかし、木を切ろうとするとテレビ局が集まって犯罪者みたいな扱いになるので、国の森林担当部局も木を切ることはしない（笑）。では檜をどうするか。台風で山が崩れて流れ、檜はダムに沈む。それを政府が入札して、業者が引き上げる。海岸に流れた木も入札。その結果、長い木は取れない。だいたいボロボロ。老董軒では、工事をやってくれた李国玄さんが檜好きで、総督府の古い工場や家屋が解体される度に買いつけた。日本統治時代の直営工場は最高級の檜を惜しみなく使った。それをもう一度、ひきなおして使ってい

る。材料は事前に集めるのではなく、全部その時に考える。それが楽しみ。現場で具体的な仕事をする、その国のディテールが本当にわかる。台湾では杉も檜も日本と同じように使えるから違いは感じない。でも輸入材か古材になる。竹は腐るほどあって取っていいけれど、耐久性で問題がある。

日本で僕が地元の山でよく木を切って使うのは、村の権利があるから。それを東京の建築家に言ったら、「それはあなたから出来ること」と。山の持ち主を地元の人には知っている。でも、普通は山の持ち主を探すのは大変。それは世界中同じよ。木はやっかいなの。例えば、イギリスで仕事をした時、山に生えている木を選んで切って使いたかった。しかし「そんなのはとんでもない」という。ドーバー海峡沿いに一か所だけ、個人が持っている山で木を切る場所があるという。楽しみに行ったら、既に枝も無い綺麗な木が切ってあって「どうぞの中から選んで使って下さい」と。選んで使いたかったのに！それとか、オーストラリアでやった時は、村の周りに広大な山林があった。全部、大地主として今も村に君臨している旧王様の持ち物。たまたま、昔の羊飼いの息子がいて、相談したら「そういうことなら公共性があるから切っていい」と。領主のお抱えの樵が来て切ったの。鉄とガラスとコンクリートは世界中で一緒だけれども、それ以外の道具や材料は、深く現地の事情をかかえている。それがとても面白い。

特集 2

知られざる
梅澤捨次郎
の仕事

梅澤捨次郎、その名前を聞いたことのある人は少ないだろう。1890年生まれ、梅澤は工手学校を卒業してすぐに台湾に渡り、日本総督府土木部營繕課に務めて、台中医院、台北大学、台中教育大学など数々の建築を手がけた。家族と大きな屋敷に住み、幾つもの会社の顧問を勤めていた。晩年に日本に戻った梅澤は、明治の気質からか、自分の仕事ぶりを誇示しなかった。同様に台湾では技師として働いた彼の名はほとんど公になっていない。しかし彼が建てた建築は、今なお各地で愛され、大事に改修されている。知られざる梅澤の活動を追った。



結婚 25 周年、台湾神社境内にて捨次郎と志奈
(奈は変体かなのふ) 1943 年 12 月 21 日



台南警察署



專売局新竹支局



台中師範学校本館



台中医院病棟



松山煙草工場

82年目の復活 「林百貨」

台南のハヤシ百貨店が82年ぶりに華々しいリニューアルオープンを向かえた。長い間、地元の人々はこの角地のランドマークを日本統治時代の建物として見守っていた。古き良き時代が、モダンな空気をまとうと鮮やかに蘇った。



オープニングセレモニー



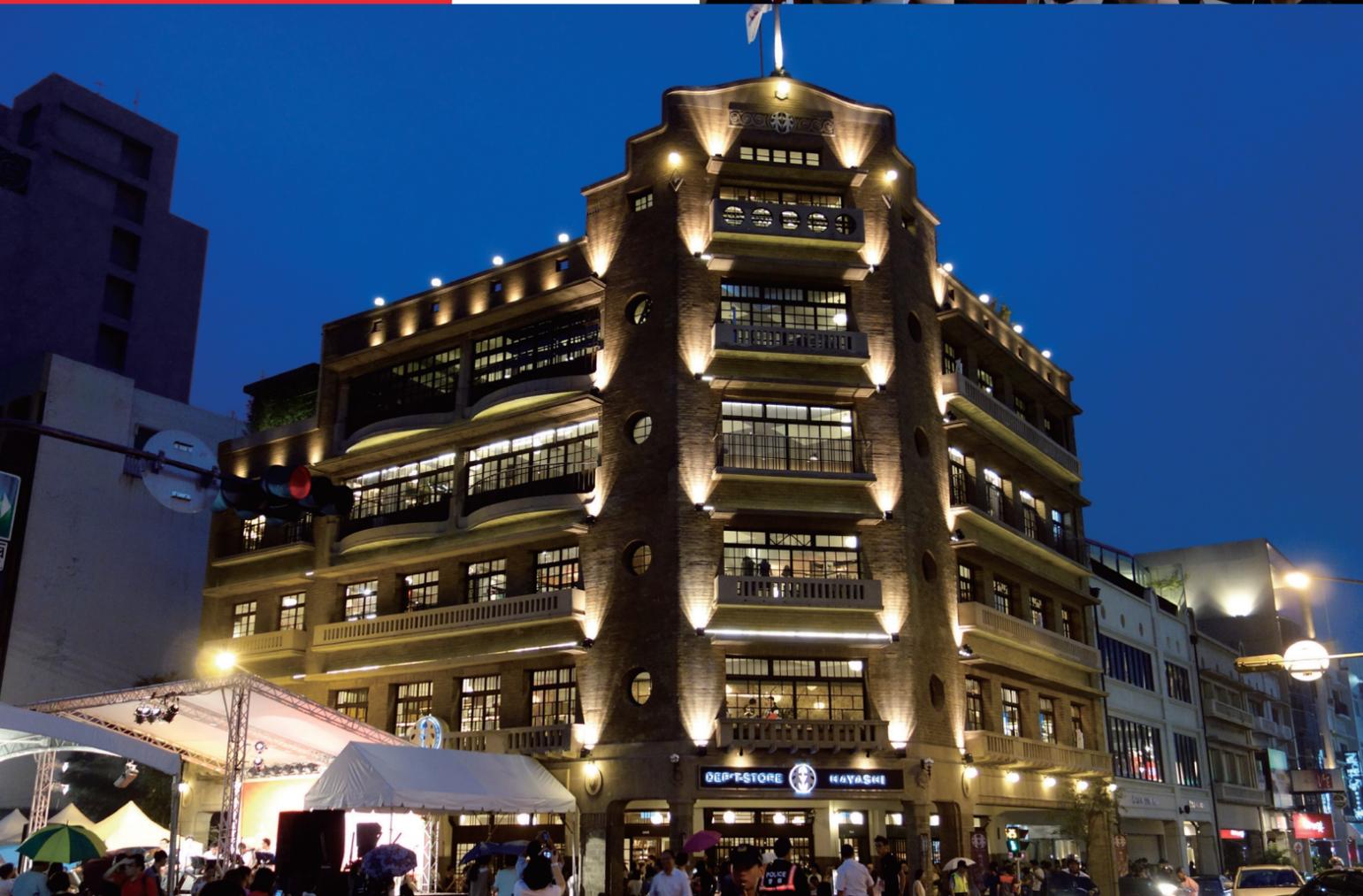
開店を待つ人と、パレードを見る人の熱気に包まれた林百貨



林印のスタンプ



創始者林方一の子孫、五十嵐南美子さん（左）と林千恵子さん（中央）建築家梅澤捨次郎の子孫、吉浦基紀さん（右）と美津子さん（後列）が林百貨に駆けつけた。（撮影/黄建龍）



2014年6月14日夕方に音楽演奏が始まると、台南は1932年にタイムスリップした。化粧で扮したモダンボーイとモダンガール、高校球児、浴衣やドレスに身を包んだハイカラな若者のパレードが街を練り歩き、ステージでは高青時尚の社長が林百貨の再開を高らかに宣言した。特設の郵便局が、記念切手を売り出し林印のスタンプを押した。この日を心待ちにしていた人々とメディアが幾重にも百貨店を取り巻いた。梅澤捨次郎の建築はこうして再び脚光を浴びた。



林百貨の新装 開店にみる、 私の工手学校 研究の回想

蔡 龍保

はじめに

林百貨・梅澤捨次郎との縁は、8年前に始めた工手学校に関する研究につながる。充実した研究の旅の中で、沢山の不思議な縁があった。梅澤捨次郎が設計した作品は非常に多く、大半は指定文化財として保存されている。事実、林百貨の建物は梅澤技師が設計した「末広町店舗住宅」の一部であった。「末広町店舗住宅」は当時の市区改正事業の推進の下、官庁と民間の協力によって成功した事例である。公務で多忙な中、梅澤技師がこの仕事を引き受けたのは、本当に美しい現代建築が市街に実現することを願ったからである。^{※1}末広町通りは現在の台南市の中正路にあたる。店舗住宅が完成すると商業が栄え、末広町は「銀座」と呼ばれるようになった。1932年、末広町にオープンしたハヤシ百貨店は台南の商業繁栄の象徴となった。その「エレベーター」や買い物は台南の昔の人々にとって貴重で懐かしい思い出である。82年が経ち、折しも台南市が創意産業年とした2014年に、林百貨は「文化と創造のデパート」として装いを新たに再開した。昔からの歴史に続き、新たな記憶が台南の人々に刻まれた。^{※2}光栄なことに、私は林百貨の新たな開幕式に招待された。長い間進めてきた工手学校の研究の感想の数々が思い起こされる。ここに綴って読者と分かち合いたい。

1. 研究の始まり—工手学校と台湾

私は長い間、日本統治時代の台湾の鉄道史、道路史など植民地インフラの研究に携わり、台湾が近代化に向かう中で「近代性」と「植民性」を探ってきた。台湾が近代化に向かう過程で、台湾総督府の各部門、各領域の技術官が推進の担い手となった。土木部門を見ると、日本統治期には土木技術の官僚の指導のもとに、築港、鉄道、道路、都市計画、電信、電力の各事業が進められ、総督府の基礎が確立し、台湾は近代化へと向かっていった。したがって、技官と工手を養成する学校が植民統治の「官学連携」の関係を研究したことは重要なポイントである。台湾総督府鉄道部を見ると、東京帝大、京都帝大などの技師養成学校を除くと、鉄道技術者の養成は工手学校、岩倉鉄道学校、攻玉社工学校に集中し、工手学校の卒業生が多数を占めていた。ゆえに、工手学校に関する研究を始めたのである。2008年に、研究計画「戦前日本工手学校卒業生の海外活動—植民地台湾を例として」を起草し、日台交流協会の協賛を得た。東京大学の吉澤誠一郎教授の協力で東京大学外国人研究員として東京で資料を集め、研究を進めている。工学院大学の図書館で資料を探していた時、始めは嬉しさと憂鬱が半々だった。嬉しかったのは大正期後半の資料がわりと充実していたからで、残念だった

のは明治期の資料が非常に少なかったからだ。その時私は、明治期から工手学校と台湾には深いかかりがあるに違いないと思っていた。図書館で資料を集めた後、本来は帰るつもりだったが、突然ひらめいて、図書館の職員に「工学院大学に同窓会組織があるか、もしあれば関連資料を閲覧できないか」と尋ねた。図書館員の協力で、同じビルにある同窓会事務室にてさらに問い合わせることができた。

校友会の渡辺征一郎さん、建築学科教授の谷口宗彦先生、後藤治先生、都市建築デザイン研究所の大場光博さんの協力を得て、順調に資料を収集した。同窓会事務室ですべての卒業生名簿と同窓会誌等の資料を目にしてとても興奮した。後で台湾と日本の両方の資料を合わせると、日本統治時代の工手学校卒業生の台湾での活躍について、ついにはっきりとした輪郭がわかり、「日本工手学校の設立及びその卒業生の海外活動—台湾を中心とした考察(1895-1905)」を完成させた。

日本統治期の最初の10年に少なくとも137人の工手学校卒業生が台湾で就職した。私は彼らの活動を分析し、台湾の官庁や業界のみならず、日本統治初期の植民統治上でも重要な役割を果たしたことを指摘した。また、植民統治時代の産業界、官庁、技術人員養成学校における産・官・学の補完関係を明らかにした。

つまり、日本による台湾植民地統治の背後には重要な技術官僚、技術者がおり、後ろ盾となって支え、各植民地政策に協力した。こうした技術人員の養成学校は台湾総督府にとって欠かせない人材銀行であり、工手学校は重要な一例である。^{※3}

植民史には必ず搾取や差別といった面があり、日本による台湾植民統治も例外ではない。注目に値するのは、技術官僚は行政官僚に比べて技術本位、仕事本位で物事を進めたので、目覚ましい成果を植民地に数多く残し、台湾の歴史の教科書に載ったほどだった。例えば、台湾の嘉南平原で「嘉南大圳」を修築した土木技術官僚の八田与一(東京大学土木科)や、台湾の稲の品種「蓬莱米」を改良した農業技術官僚の磯永吉(東北帝国大学農業科)は良く知られている。工手学校出身の技術人員が台湾で遂げた成果は、さらに深く探求する価値がある。

2. 梅澤捨次郎の登場

「日本工手学校設立及びその卒業生の海外活動—台湾を中心とした考察(1895-1905)」の完成後、谷口先生と工学院大学建築学部同窓会の依頼で、戦前に台湾に来て活躍した卒業生を毎年一人ずつ選び、「125周年特別企画」と「近代建築を支えた建築家の系譜」と題し、工学院大学建築学部の同窓会誌『NICHE』に掲載した。この連載の題材には、主に戦前

の台湾で活躍した土木科と建築科の卒業生の中から、重要な業績が明らかなる者を選んだ。2009年から「飯田豊二と日本統治時代初期の台湾鉄道」、「進藤熊之助と日本統治時代初期の台湾鉄道」、「戦前期工手学校卒業生の台湾における活動—八板志賀助を事例として—」、「工手学校卒業生と台湾総督府の土地調査事業」、「梅澤捨次郎の台湾での活躍—戦前期1910年代における工手学校卒業生の海外活動の一実例—」、「尾辻国吉の台湾における業績」を執筆した。研究が進むにつれて、工手学校の卒業生の戦前の台湾での重要性は、私の想像をはるかに超えていたと言わざるを得ない。

2012年の暮れはいつもと違い、谷口先生と工学院大学建築学部同窓会からの依頼は来なかった。執筆する題材と人物はすでに決まっておらず、関連資料も大体把握していたのだが、その年私は事務で多忙で、その年度は一度休みたいと思っていた。思いがけず、2013年1月12日に突然谷口先生からメールが届いた。日本の「北国新聞」のネットの記事が工手学校の卒業生である梅澤捨次郎について書いており、私に梅澤技師を紹介してほしいとのことだった。面白いことに、私は元々その年は梅澤捨次郎について執筆するつもりだったので、谷口先生の手紙を読んで思わず笑ってしまった。こうして期末の最も忙しい時期に、しかも旧



図1 「松山煙草工場」吉浦基紀さん自作の切り絵



図2 林百貨オープンセレモニーの盛況



図3 開幕に行列をなす人々



図4 「林百貨」吉浦基紀さん自作の切り絵

暦の休暇を費やす羽目になるが、書くことに決めた。梅澤技師は1911年来て1955年に帰国するまで、45年間を台湾で過ごし、日本統治期と国民政府の時代のふたつの時代を跨いで、数多くの作品を残し、私に深い印象を与えた。

3. 松山煙草工場と林百貨

2013年3月に「梅澤捨次郎の台湾での活躍―戦前期1910年代における工手学校卒業生の海外活動の一事例」を掲載した後、私はもっと多くの人に梅澤技師について知ってもらいたいと思った。例えば、誰もが煙草工場（今の松山文創園区）を知っているがその設計者は知らない。そこで何回か講演会に招かれた折に、意図的に梅澤技師とその作品について話した。掲載から半年後、2013年9月に台湾歴史資源経理学会の招待で「台北鉄道伝説」講座の講師になり、テーマを「煙草工場・梅澤捨次郎・工手学校と台湾」とした。初めに依頼された講演テーマは鉄道に関してだったが、梅澤技師の重要な作品の一つである松山煙草工場の敷地は鉄道とも密接に関係しているで、両方の話題からこのテーマを提案した。台湾歴史資源経理学会の劉如意さんの好意で、講演会場は建国ビール工場から松山煙草工場(松山文創園区 2階多機能ホール)に変更になった。梅澤技師が設計した建物の中で皆に彼を紹介できたのは、私にとって非常に素晴らしい経験だった。劉さんにはとても感謝している。

梅澤技師のもう一つの重要な作品は、未広町に完全にその姿を留めているハヤシ百貨店である。偶然にも私の原稿が仕上がる数日前に建物の修復が完成した。ハヤシ百貨店は市の政治経済の中心地にあったため、第二次世界大戦中にアメリカの爆撃に遭った。国民政府に來台後、1952年に創業の台湾製塩工場(前身は中国塩業公司)と「塩務警察」が共に林百貨を事務所とし、最上階を防空戦備に用いた。後に台塩事務所は現在の健康路に移転してハヤシ百貨店は放置されたが、1998年に市定旧跡になった。市政

府と文化部の共同出資で8000万台湾ドル（日本円で3億円）をかけて修復し、2013年1月に完成した。その後、台南市政府文化局が競争入札を募集し、高青時尚株式会社が10年の経営権を獲得し、文化的、創造的な百貨店として新装を企画した。

1932年の開店当時、ハヤシ百貨店は台南で一番高い建物で、初の商業用エレベーターがあった。2014年6月14日、全面的にリニューアルした林百貨は午後6時30分に正式にオープンし、行列の波は数百メートルに及んだ。台南市政府は新装開店した林百貨が、台南のクリエイティブな産業に広い売り場やマーケティング、販促ルートを提供することに期待を寄せた。さらに、周辺の孔子廟文化園区、赤崁楼、台湾文学館、計画中の台南市美術館など有名な観光スポットとあわせて観光に力を入れ、産業と文化がバランスよく発展するよう考慮した。^{※4}私は光栄にも開幕式に招待された。梅澤技師の子孫である吉浦基紀、美津子夫妻に会うのを非常に楽しみに、台北から南下してこの一大イベントに参加した。感動の余り、文化と芸術は時空を超えるのだと実感した。

4. 時空を超える文化と芸術

私は工手学校の研究を進める過程で、「政治は人を分離し、文化芸術は人を結ぶ」という意味を十分に感じた。すでに分断され、忘れられ、取り消された台湾と日本の歴史的、文化的つながりが、歴史の研究を通し、再び結び直されたと言える。こうしたつながりが復活し、台湾と日本の間にたくさんの文化交流が増えている。工学院大学は戦前の卒業生の台湾における活躍を非常に重視している。私が一連の工手学校の研究を発表した後、2014年3月に谷口先生が7人を率いて台湾を訪れ、戦前の卒業生が残した建築作品群を見学した。それ以来、工学院大学の代表者が頻繁に台湾を訪ね交流している。

2014年3月28日、八田与一文化芸術

基金会の会長の徳光重人さん、台南企業文化芸術基金会の会長の葉重利さん、林百貨顧問の黄建龍さんの協力で、特別に一般公開前の林百貨に入り、修繕、活性化、再利用の過程を説明してもらった。谷口先生たちは、林百貨の修繕状況や再利用計画にとっても感心していた。台南は素晴らしい都市で、文化旧跡の保存や利用方法は台湾中の模範である、と私は常に思っている。台湾の歴史的建築について友人に話るとき、私はいつもこう話す。「現在、日本統治時代の歴史的建築の多くが様々なレベルの文化財に指定されている。それらは日本人が残したものだ。戦後に建てられた建物の中に、将来、文化財に指定されるものがどれほどあるだろうか。良く考え、用心する必要がある。さらに言えば、日本人が残した文化財の功績は日本人に与えられるが、どう活用するかは我々次第だ。だから再生の名のもとに破壊するのではなく、活用と再利用をよくよく考える必要がある」林百貨の保存と活用と再利用は理想と現実を兼ね備える。この経験が今後文化財を扱う時に重要な参考になることを期待する。

私は林百貨の新装開店に参加して、歴史、文化、芸術の力をこの目で確かめた。この建物は単なる冷たい鉄筋コンクリートではなくて、芸術的な建築デザインであり、80数年の歳月を負い、深い文化変容を含んだ、巨大な無形資産である。台南の人々は深い洞察力から注意深くこの建物を保存し、新たな命を吹き込む方法を一生懸命に考えた。そしてついに2014年6月14日、群衆の祝福のもとに再出発し、再び私たちと共に未来を歩んでいく。開幕式は言わば一大イベントで、古い一棟の建物がこんなに沢山の人を引き寄せたことに驚いた。とりわけ、ハヤシ百貨店創設者の林方一の義理の娘の林千恵子さんと、建築家の梅澤技師の孫である吉浦夫妻がはるばる日本から駆けつけてこの感動を分かち合ったのは深い意義があった。後に、吉浦美津子さんが帰国後に書いてくれたメールを私は嬉

しく拝見した。「6月に台湾を訪れて以来、台湾の人や土地が好きになり、そして歴史に興味湧くようになり、台湾情報には目や耳にアンテナが立つようになりました。さて、今月台湾で高雄映画祭が開催されます。そこで私の息子(吉浦康裕)が原作、脚本、監督を務めましたアニメ映画『サカサマのパテマ』が上映される事になりました。この事は不思議な気がしてならないのです。祖父母が生活していた台南の方で、しかも林百貨が69年ぶりにオープンした年に。作品の違いはあっても台湾の皆様に見て頂けるのです」

なんと自然で素晴らしい交流だろう！林百貨の研究を通じ、私は台湾と日本の歴史、文化、芸術に関心を持つたくさんの友人に会った。みな時を越えて梅澤技師及びその時代との交流を展開し、国境や空間の隔たりを越えて互いに知り合った。不思議なことに、2014年に新たに芽生えた縁は80年前にまかれたものだった。当時、梅澤技師は自分の作品が種となり、人々が再び台湾に来ることになるとは思いもしなかったろう。私も自分の工手学校の研究がきっかけで、工学院大学の教授や卒業生、吉浦夫妻らが台湾に来るとは思いもしなかった。

結び

歴史学は忘れられた歴史的事実を掘り起こし、異なる角度から考え解釈する学問である。忘れられた歴史的事実の再発見はある意味で知識を創造することに等しい。歴史の知識は各時代の文化や芸術の根底となり、各時代の文化や芸術と対話し解釈する可能性を切り開く。異なる角度から再考すると、多様な価値を尊重する能力が育まれる。歴史学とは問題を解決するもので、学問の紛争を作るものではない。ちっぽけな人類は、周囲の人、事、物、および過去の歴史の中から様々な啓発や強さを学ばなくていけない。林百貨は台湾の50年の植民史の中で小さな断片に過ぎないが、そこには多くのポジティブな力がある。梅澤技師の

影響力はさらに拡大するだろう。松山煙草工場や林百貨以外に、台南警察署などの作品の利用が計画されているからだ。面白いことに、私を知る限り工手学校と台南の結びつきは特に深く、さらなる調査に値する。政治は一時的なものだが、文化と芸術は永遠である。私は林百貨のリニューアルオープンにより、文化と芸術が政治、国境、民族、時間、空間等を超えられることを実感した。この人々の文化と芸術の非公式な交流こそ、日台友好の重要な架け橋である。そして、これは喜ばしい始まりに過ぎないと私は信じている。

- ※1 梅澤捨次郎「台南市未広町店舗住宅建築に就て」『台湾建築会誌』4編6号、1932年、19ページ。
- ※2 辛啓松「展示妻の実家に帰る 林百貨店近日オープン」アップルデイリー、2014年6月11日 20:46 <http://www.appledaily.com.tw/realtimenews/article/new/20140611/414583>（引用日付：2014.6.17）
- ※3 蔡龍保、「日本工手学校設立及びその卒業生の海外活動 - 台湾を中心とした考察 (1895-1905)」『興大歴史学報』、24期 (2012年6月)、1-58ページ
- ※4 「全台湾で唯一の文創百貨 林百貨 14日オープン」、『中時電子報』、2014年06月11日 18:24 工商即時、<http://www.chinatimes.com/realtimenews/20140611004820-260405>（引用日付：2014.6.17）。



蔡龍保 Lung-pao Tsai

| | |
|------|-------------------------|
| 2006 | 国立台湾師範大学歴史学系博士 |
| 2008 | 工学院大学客員研究員 |
| 2010 | 立教大学招聘研究員 一橋大学外国人研究員 |
| | 東京大学文学部外国人研究員 |
| 2012 | 国立台北大学歴史学系准教授 |
| 2013 | 神戸大学招聘教授 |

NICHE PASSPORT

海外建築レポート

若者よ、旅に出でよ！
工学院大学建築学部同窓会では、
在学生の海外研修をサポートして
いる。2014年度の海外渡航奨励金
制度を利用した学生たちからレ
ポートが届いた。



Flight 01 MARCH 2014



アジア3国を巡って 天貝 悠

- 3月21日 成田発
- 3月22日 タイ・バンコク着 王宮・市街調査
- 3月23日 アユタヤへ移動 古代遺跡調査
- 3月24日 アムパワーへ移動 水上マーケット調査
- 3月25日 バンコク市街散策 マレーシアへ移動
- 3月26日 クアラルンプール市街調査
- 3月27日 クアラルンプール市街散策 シンガポールへ移動
- 3月28日 ナンヤン工科大学、HDB団地群
- 3月29日 マリーナベイサンズ、ガーデンズバイザベイ、OMAのインターレース
- 3月30日 シンガポール発
- 3月31日 成田着



Flight 02 JUNE 2014



北欧の光と建築 河邊 真

- | | | |
|--------------------------|-------------------------------------|------------------------|
| 6月8日 成田発 ヘルシンキ着 | 6月19日 ユールゴーデン島散策 | 6月29日 ルイジアナ美術館 |
| 6月9日 スオメンリンナ、テンペリアウキオ教会 | 6月20日 森の墓地 | 6月30日 BIG設計の集合住宅 |
| 6月10日 アールト自邸、アールトのアトリエ | 6月21日 建築博物館 | 7月13日 XN設計の大学 |
| 6月11日 ヘルシンキからユバスキュラへ移動 | 6月22日 ノーベル博物館 | 7月2日 コペンハーゲンからヘルシンキへ移動 |
| 6月12日 ユバスキュラ市内散策 | 6月23日 コペンハーゲンへ移動 | 7月3日 ヘルシンキから成田着 |
| 6月13日 アールトの実験住宅、村役場 | 6月24日 ブラックダイヤモンド | |
| 6月14日 アールト博物館 | 6月25日 デンマーク国立銀行、 ラディソンSASロイヤルホテル | |
| 6月15日 キアズマ見学、ストックホルムへ移動 | 6月26日 グレントヴィークス教会 | |
| 6月16日 ガラム・スタン、ストックホルム市庁舎 | 6月27日 ユダヤ美術館 | |
| 6月17日 スカンセン散策 | 6月28日 王立図書館 | |
| 6月18日 ストックホルム市立図書館 | | |



Flight 03 JULY 2014

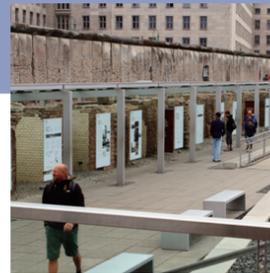


伝統と消費が混在するタイ・バンコク 須貝 孝太

- 7月29日 東京発 バンコク着
- 7月30日 王宮周辺見学
- 7月31日 バンコク博物館見学
- 8月1日 トンブリー地区見学
- 8月2日 アユタヤ見学
- 8月3日 メークロン駅見学
- 8月4日 バンコク発 東京着



Flight 04 AUGUST 2014



東西で分断された都市ドイツ・ベルリン 木名瀬 新

- 8月27日 成田発 ベルリン着
- 8月28日 新ナショナルギャラリー、ベルリン・フィルハーモニー
- 8月29日 ソニーセンター、DG銀行
- 8月30日 ベルリン・ユダヤ博物館、ドイツ金属労働組合本部
- 8月31日 センチュリーシティ、キャピタルレコード見学
- 9月1日 ベルリン州立図書館、ダイムラシティ
- 9月2日 パウハウス・アーカイブ
- 9月3日 ベルリン発
- 9月4日 成田着



Flight 05 OCTOBER 2014

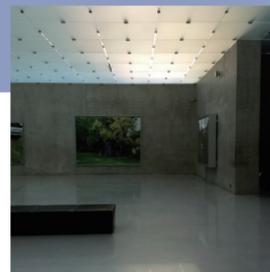


自分と社会と建築の距離を知るヨーロッパの旅 安齋 智史

- | | | |
|----------------------------|-------------------|--------------------------|
| 10月2日 成田発 イタリア ミラノ着 レッコに移動 | 10月13日 ビサの斜塔 | 10月24日 フランクフルト見本市 |
| 10月3日 ミラノ工科大学にてワークショップ | 10月14日 ベネチアへ移動 | 10月25日 ドイツ建築博物館 |
| 10月4日 プレミオ・コンパッソ・ボランテ授賞式 | 10月15日 ベネチアビエンナーレ | 10月26日 パリへ移動 |
| 10月5日 オスカー・ニーマイヤーの建築 | 10月16日 チューリッヒへ移動 | 10月27日 アラブ世界研究所 |
| 10月6日 ローマへ移動 | 10月17日 タメリア本社見学 | 10月28日 ルーブル美術館 |
| 10月7日 ヴァチカン | 10月18日 バーゼルへ移動 | 10月29日 ルイ・ヴィトン・ファウンデーション |
| 10月8日 ローマの歴史探訪 | 10月19日 ロンジャン礼拝堂見学 | 10月30日 ボンビドーセンター |
| 10月9日 ローマの建築巡り | 10月20日 バーゼルの現代建築 | 10月31日 成田着 |
| 10月10日 フィレンツェへ移動 | 10月21日 ヴィトラキャンパス | |
| 10月11日 ウッフィー美術館 | 10月22日 シュトゥットガルト | |
| 10月12日 フィレンツェの建築 | 10月23日 フランクフルトへ移動 | |



Flight 06 NOVEMBER 2014



スイスのピーター・ズントーの建築を訪ねて 渡辺 隼

- 11月12日 成田発 チューリッヒ着、ルツェルン文化会議センター、ルツェルン中央駅
- 11月13日 プレゲンツ美術館
- 11月14日 テルメ・ヴァルス、聖ベネディクト教会
- 11月15日 ロンジャン礼拝堂
- 11月16日 ロレックスラーニングセンター、パウル・クレア美術館
- 11月17日 ヴィトラ工場、ヴィトラ・デザイン・ミュージアム、ヴィトラハウス、国際決済銀行
- 11月18日 ティンゲリー美術館、シグナルボックス、バイエラー財団美術館
- 11月19日 タメディア本社
- 11月20日 スイス・チューリッヒ発
- 11月21日 成田着





タイ・バンコクのカオサン通りにて。店舗が道路にあふれ出している



シンガポールにてシーサイドを一望する

タイ

タイ・バンコクの通りには店がしみ出し、見た事の無い食べ物や嗅いだ事の無い臭いがそここにあり、様々な国の人語り合っている。日本であればそれなりの広さを持った道路のはずなのだが、広場として人々が占領してしまっている。道路をこのように占領し、賑わいを見せるたくましさ、それを許容する懐の広さを感じられた。中心市街地の大規模な開発には、今後のバンコクの開発がうかがえた。しかし、交通渋滞といった問題は慢性的に発生しており、大気汚染や公共衛生などを都市計画的に整備していくのだろうが、それによってタイの魅力が減ってしまうことが心配である。

マレーシア

クアラルンプールはバンコクに比べて整然とした近代的な雰囲気が漂っていた。経済成長により、高層ビルが次々と整備されているが、ところによってはビルの足元に小規模な建築物が残されており未だ活気のある賑わいの場所を形成していた。それが意図的なものかはわからないが、近代化さえも飲みこんでしまう土着のエネルギーを感じた。

シンガポール

これまで訪れた2都市よりもシンガ

ポールは特殊な国だった。シンガポールは極めて国土が狭いながらも資源に頼らずに発展を遂げた珍しい国である。中心部の開発も有名だが、国民の約90%が暮らしているHDBの団地群は圧巻であった。戸建集宅が無く、高く積み重ねられた団地に人々が入っていく姿は非常に奇妙に映った。しかし、それによって得られたオープンスペースは広大で豊かであり、強引とも感じるこの政策が一つの成功を収めていることに感動した。

美しさよりも優先されるもの

タイ、マレーシア、シンガポールの3か国を回ったが、主に注目したのは公共空間の使い方だった。3国の人々のずうずうしいともいえる公共空間に対する大胆な振る舞いは、日本ではあまり見ることができないので非常に愉快で刺激的だった。しかしマレーシアやシンガポールでは近代化が進行するにつれて街並みは美しくなったが、人が活動することのできるスペースが少なくなってきていると感じた。便利さばかりを求めるのではなく、多少不便でも優先すべき事柄があるのではないか。人間のための公共空間の創り方を、戒めも含めながら今後の研究に活かしていきたいと思う。この度はこのような機会を与えて頂きありがとうございました。



シンガポールの整備された街路

HDB(Housing Development Board) シンガポールの団地群と移動する人々



NICHE PASSPORT

アジア3国を巡って

天貝 悠



天貝 悠 Yu Amagai

1992 茨城県生まれ
 2010 茨城県立並木高等学校 卒業
 工学院大学工学部建築学科建築学コース 入学
 2014 工学院大学工学部建築学科建築学コース(遠藤新研究室) 卒業
 2015 工学院大学大学院工学研究科建築学専攻(遠藤新研究室) 在学中
 将来の夢 まちづくり、都市デザインに関わる仕事に就きたい。

北欧の光 と建築

河邊 真



アールトのアトリエの製図室
作業のため自然光と風景を上手く取り入れたアールトラしい空間

スカンセン野外博物館にある山小屋
当時の生活の再現として山小屋の娘が手芸にいそしむ



日が沈まない夏

白夜を体験したいというのが今回の旅の大きな目的であった。そして北欧（フィンランド・スウェーデン・デンマーク）を渡航国に選んだ理由は、日本と国土の樹林帯面積がほぼ同じで古くから木造建築があり、北欧特有の環境が北欧の建築にどのように影響し、日本との違いを生んでいるのかということを経験するためである。そしてここでは私が感じた北欧特有の上からの光と建築の関係について述べたいと思う。

山小屋の光

スウェーデンのスカンセン野外博物館にある山小屋を見学した。夏に家畜を放し飼いにし、牛飼いの娘たちが冬の到来までそこで暮らす、当時（1700～1800年代）の山小屋の生活が再現されていた。

この山小屋は藁葺き屋根になっていて、天井高が低く抑えられ、室内全体は薄暗い。天窓からの光の下に日中作業するための椅子、暖炉、ベッドが置かれ、日光が生活の中心になっていた。それには北欧の夏特有の日の近さと長さ、角度が大きく影響している。上からの光を中心に生活することが北欧建築の大きな特徴の一つであることがこの体験からわ

かった。

アールトの上からの光

各国の巨匠であるアルヴァ・アールト、グンナール・アスプルンド、アルネ・ヤコブセンの設計した建築を見学してきた。それぞれが様々な上からの光を設計していたが、ここではアルヴァ・アールトのアトリエについて述べたいと思う。

このアトリエは1956年にアールトが設計したもので、多様な上からの光がデザインされていた。例えば机を照らすために大きなハイサイドライトを設けた製図室、天窓からの光を傾いた壁に反射させることで明るさが調節された読書のための書斎。天井高が高い勾配天井のミーティング室では中庭を見下ろす連続水平窓からの光と、空間上部を照らす天窓と、ハイサイドライトからの光によって人が集うための空間を設計していた。

アールトのアトリエでは一つの光に様々な生活行為を集中させるのではなく、空間ごとの生活行為に似合う光を設計していた。

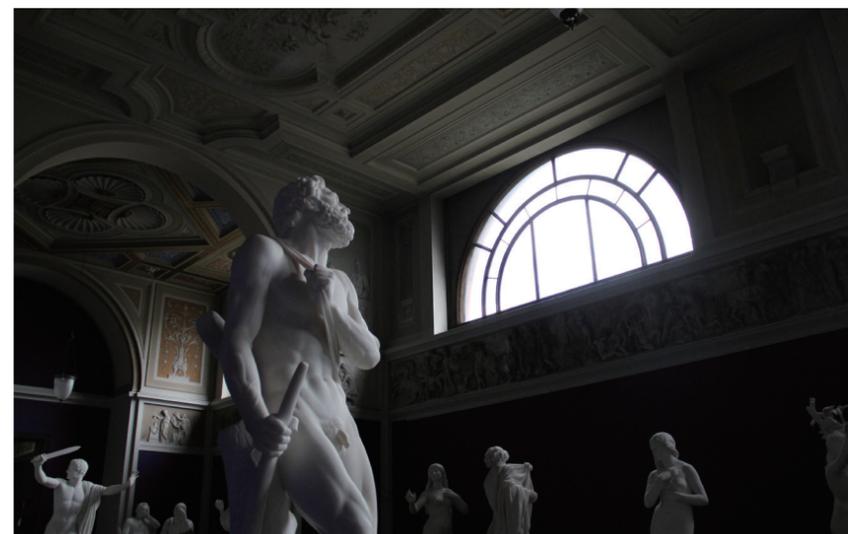
旅をして思うこと

紹介した2つの光の空間以外にも渡航した3ヶ国で北欧の日の光を活用した素晴らしい空間を体験し、勉強することができた。しかし、同じものをそのまま日本で建てても同じ経験は得られないと感じられた。

技術が発展し外部環境が内部環境に大きく影響しなくなった現在においても、多くの北欧の現代建築では上からの光を大切に、建築が設計されていた。どこにでも同じような建築を建てられる現代だからこそ、その土地の環境と建築の関係を大切にするべきであり、そうして出来た建築が街並の特徴をつくるひとつの要因になっていることが今回の旅で学んだことである。最後にこのような機会を作って下さった同窓会の先輩方に深く感謝したい。



テンベリアウキオ教会
太陽の動きや雲の動きによって光や影が移ろう不思議な空間



ニイ・カールスベルグ・グリプテック美術館
自然光の順光と逆光によって、部屋や作品の見え方が変わった空間

アールトのアトリエのミーティング室
夜はここで中庭に映した映画をスタッフと見ながらお酒を酌み交わしていた



河邊 真 Shin Kawabe

1991 東京都生まれ
2009 私立國學院高等学校 卒業
工学院大学工学部建築学科建築学コース 入学
2013 工学院大学工学部建築学科建築学コース (木下研究室) 卒業
2014 工学院大学大学院工学研究科建築学専攻 (木下研究室)
将来の夢 郊外で住宅の設計の仕事に携わっていきたい。



一般的な住居・店舗と高層マンション

旅の目的

東京の街を歩いていて、その土地の文化が残つつも新しいものが混じっている地域に興味を持ち、それ以来、その混じっていく過程を見たいと思うようになった。バンコクは正にその過程の中にあると感じ、実際に滞在することで現地の文化を体験することを目的とした。

混在する都市

宿にはバックパッカーの集まる王宮周辺ではなく、学生や一般的な世帯の人が多く住むラチャダーピセークを選んだ。

周辺に観光客向けの施設はほとんど無く、地下鉄と幹線道路沿いには大型ショッピングモールや高層マンションが建設され、その裏手には一般的なアパートや風俗店が混在し、更に奥に低所得者が住んでいるであろうバラックの家が建ち並んでいた。

他の地域はここまで無秩序ではなかったが、真新しい商業施設があっても、整備がされているのはその周辺と幹線道路のみで、少し離れると近世以降の中層の集合住宅が多く見られた。この密に建てられる集住の1階部分は基本的に店舗になっていて、タイを連想するような雑多な風景を生んでいるように感じた。

タイの建築

ひたすら町を歩くことを繰り返す中で、民家や寺院を含め幾つかの伝統的な建物を見学した。

多くの寺院の外観は金や緑、黄色や青の鮮やかな色彩で細かい装飾が施され、内部は外部と切り離すようにキューブ状に壁が立てられ、仏像が置かれ壁面にびっしりと釈迦の生涯が描かれていた。

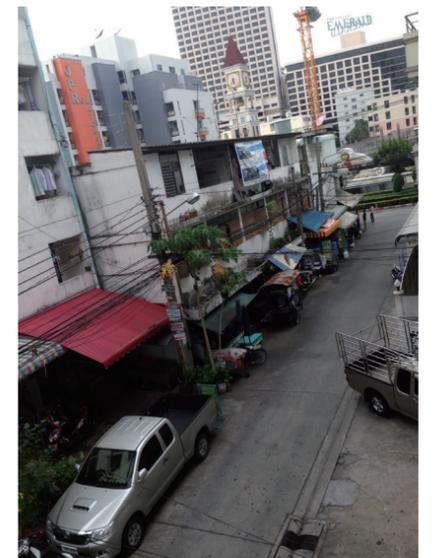
民家は木造の高床式で居室は完全に中空に持ち上げられており、寺院の様な装飾は見られなかった。1階部分の柱は内側に向かって微妙に傾いており、断面で見ると台形になっている。見学の際に専門家がいたわけではないので詳細は分からなかったが、伝統的な民家はほとんどが同じ造りだそうだ。



商業施設の建設予定地

最後に

伝統的な民家はバンコクにはほぼ無く、中心から離れた地域に水上集落のような民家が幾つか見受けられた。開発は恐ろしく速く進む一方で、そこで暮らす人たちの生活はどこか未だにスローに感じられた。現地の人と話すうちに分かったことは、仏教を信仰し輪廻を信じる彼らは、来世で上手くいけば良いと考えている節があり、金銭を稼ぐことや出世することにあまり執着が無い。東京同様に開発が進んだ時に、バンコクの都市や消費の形態がどのように変わっているかを確かめに、また訪れたいと思う。



ラチャダーピセークの町並み

裏手の高層マンション



須貝 孝太 Kota Sugai

1990 埼玉県生まれ
 2009 さいたま市立浦和南高等学校 卒業
 工学院大学工学部建築学科 入学
 2013 工学院大学工学部建築学科 (富永研究室) 卒業
 2014 工学院大学大学院工学研究科建築学専攻 (富永研究室)
 将来の夢 一級建築士を取得し次第、アトリエに勤務したい。

NICHE PASSPORT

伝統と消費が混在するタイ・バンコク

須貝 孝太

鮮やかな色彩の寺院





現存するベルリンの壁

ベルリンの壁の内側は展示スペースになっている



NICHE PASSPORT

東西で分断された都市ドイツ・ベルリン

木名瀬 新



ベルリンの壁

私がドイツのベルリンに行こうと思った理由の1つが「ベルリンの壁」である。ベルリンの壁が建設されていた時期は1969年から1989年の間であり、私が生まれた頃にはベルリンの壁はもうほとんどが残されていなかった。現在は取り壊されてしまっているが、地面にその跡が残っているくらいだ。けれども、場所によっては100m近く残っている場所もあり、当時は忘れないようにと壁の近くに多くの博物館があった。

また、ベルリンの壁が崩壊し25年たった今でも、建設中の建物が多くあり、特に旧東ベルリンにてそれが多くみられた。

ポツダム広場

ベルリンの東西の境界線上に置かれていた国境検問所「チェックポイント・チャーリー」から少し歩いたところに、ポツダム広場がある。このポツダム広場はレンゾ・ピアノによって基本計画が立てられ、ヘルムート・ヤーンによりソニーセンターが建てられた。ソニーセンターの天井は巨大な膜構造となっており、広場ではテントの中にいるというよりは、外にいる感覚にとても近かった。夜になると膜の部分がライトアップされ、光が多種に変化していき、光に包まれるような感じがあった。

ベルリン・フィルハーモニー

この旅行においての一番の目的が「ベルリン・フィルハーモニー」である。私はコンサートホールや演劇劇場などを調べている。また趣味でも音楽を聴きに行くためにコンサートホールやライブ会場、劇場など多くの場所に行く機会があった。中でも、世界で最も美しい音色と言われているコンサートホールがこの「ベルリン・フィルハーモニー」である。私がベルリンに行く前に日本でコンサートの予約をしようと思ったのだが、ツアー初日だったため予約を取ることができなかった。しかし、当日聞いてみると



ベルリン・フィルハーモニー内観



ベルリン・フィルハーモニー外観



夜のソニーセンター

キャンセルが出たため運良くコンサートを聴くことが出来た。オーケストラから真横の席であったが、曲が始まると、音が目の前から押し寄せてくる様な迫力に気圧されてしまった。ベルリンフィル管弦楽団の演奏、ベルリン・フィルハーモニーの空間に、感動のあまり言葉を失ってしまった。



木名瀬 新 Arata Kinase

1990 東京都生まれ
 2008 私立保善高等学校 卒業
 工学院大学工学部建築学科 入学
 2013 工学院大学工学部建築学科 (中島智章研究室) 卒業
 2014 工学院大学大学院工学研究科建築学専攻 (中島智章研究室)
 2015 TSP 太陽株式会社 入社
 将来の夢 来てよかったと思えるようなイベントを企画、設計していきたい。

自分と社会と建築の距離を知る ヨーロッパの旅

安齋 智史



sanaa の vitra キャンパス



ベネチア・ビエンナーレの杉本博司のガラスの茶室「門鳥庵」



オープン後すぐに訪れたルイ・ヴィトン・ファウンデーション



パリの建築遺産博物館内のユニテ・ダビタシオン 1/1 部分モックアップ

ミラノ工科大学にてワークショップの作業風景



プレミオ・コンパッソ・ボランテ

イタリアのワークショップで得たことは物事の発想が全く違うということ。ミラノ工科大学の生徒が制作した積層ダンボールシェルターは、最初は壁が透けて内部がうっすら見えるものであったが、モルタルを壁に塗りダンボールの孔を塞ぐことで空気層ができて断熱として機能する。日本の量産型のアイデアとは正反対であって、頑丈で恒久的な印象を受けた。

表彰式の前には各国の先生のレクチャーがあり、様々な視点から建築を分析して議論しているのが大変印象に残った。その後国際設計コンペ「プレミオ・コンパッソ・ボランテ」の審査があった。提出までに比較的時間があつたのだが、前期の間設計を鈴木先生にエスキースしていただいたことで、気が緩むことなく最後まで頑張れたと思う。おかげさまで自分たちのチームは佳作に入り、努力が報われた瞬間を味わうことが出来た。また同世代の人たちがあれ程までのクオリティの高い提案を持ってきたことに自分と社会との距離が少しわかった気

がした。

ベネチアビエンナーレ (イタリア)

あの憧れの建築の祭典にたまたま足を運ぶことが出来た。1/10の図面が展示してあつたり茶室があつたりインスタレーションを展開していて多くを学んだ。そのなかでも杉本博の「ガラスの茶室」は圧倒的によく、日本の感性が世界に通用することを知った。

バーゼル (スイス、ドイツ)

バーゼルは建築の街としてヘルツォーク&ド・ムーロンなどが挙げられる。市内には有名建築家が建てた建築や美術館が数多くあつた。ドイツにはヴィトラキャンパスがある。sanaaが設計した倉庫では内部を消火器以外全部真っ白に塗りつぶすといった徹底ぶりに驚いた。

ルイ・ヴィトン・ファウンデーション (フランス)

良い時期に訪れることができた。建物だけでなくヴィトンのディスプレイもゲーリーの作品で、ポンピドゥーセンターでもゲーリー展を開催しており、広

告があちこちに貼られ街全体が盛り上がっていた。空間が凄まじく、泣いている人を見ると、建築で人を感動させる空間を作りたいと強く思った。



安齋 智史 Satofumi Anzai

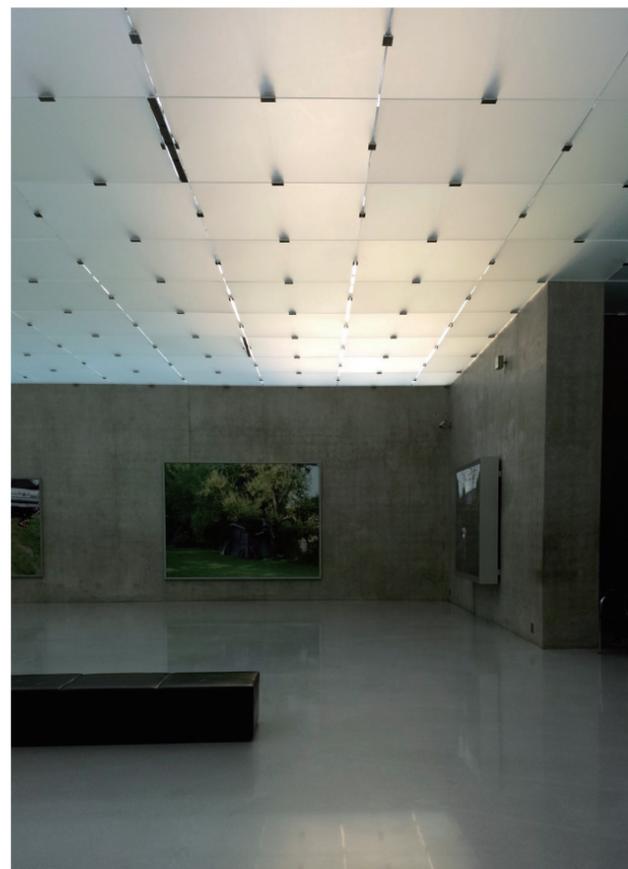
1992 栃木県生まれ
2010 栃木県大田原高校 卒業
工学院大学工学部建築学科コース 入学
2014 工学院大学工学部建築学科コース 卒業
2015 工学院大学大学院工学研究科建築学専攻 (西森研究室) 在学中
将来の夢 デザインの世界で頑張って、世界中を旅行して様々な体験をしたい。



スイスのピーター・ズントーの建築を訪ねて

渡辺 隼

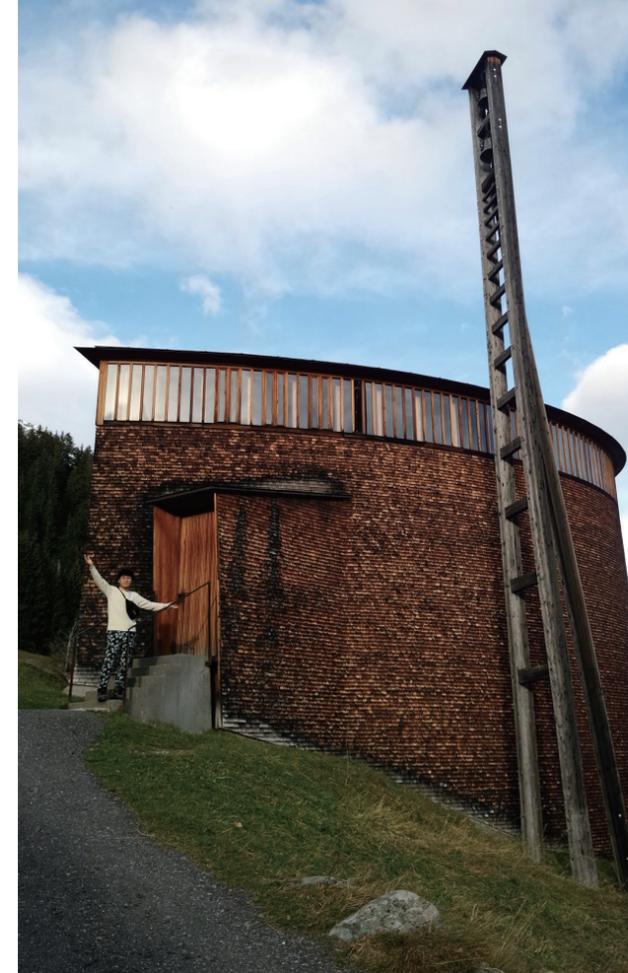
ブレゲンツ美術館の外観



ブレゲンツ美術館の内部
夕日が柔らかく落ちる



聖ベネディクト教会の屋根伏せ
「構造もデザインである」という言葉が似合う



聖ベネディクト教会の外観
山の上にひっそりと建つ

はじめに

今回のこの旅の目的は、好きな建築家の一人であり、空間の構成に秀でたピーター・ズントーの作品を実際に体感しに行くことであった。師事するインテリアデザイナーの飯島直樹教授が絶賛していたこともあり、以前から彼が作った空間を五感で吸収せねばと思っていたところでの渡航のチャンスであった。大学院に入り、昨年に鈴木敏彦先生が主催するPCV(プレミオ・コンパツ・ボランテ)にてイタリアに渡航した時を含め、2回目の渡航となる。実は人生における海外渡航も同数である。

ブレゲンツ美術館

スイス・チューリッヒから東に鉄道で約2時間、オーストリア・ボーデン湖のほとりにブレゲンツはある。湖の鼻と先の位置にブレゲンツ美術館が存在する。まず、ファサードに浮かぶ動線に目が留

まる。中に入るまでそのおかしな状況に気がつかなかった。中に入ると壁はRCで出来ていて、窓は無い。言葉だけでは重々しいが、予想以上に明るい。天井を覆うガラス越しに仕込まれた単管の蛍光灯だけではなく、外部の光が入ってきていた。壁式の重苦しい構成ではなく、階段部分やEVなどの3コアで出来ているため、ほとんどの壁は途中で止まっている。各フロアは上部に光の通り道を持つ断面構成になっている。ファサードに表れていた明るい部分は光の通り道であり、暗い部分が人の動線だったのである。

聖ベネディクト教会

今度はチューリッヒから南に鉄道で約2時間のイーランツから、さらに東へ30分鉄道を乗り継ぐ。この辺りはアルプスの一帯であり、駅の目の前にはバックパッカーの僕たちには辛い急斜面が立ちほだかる。そんなところに気さくな

イツ人で夫婦が現れ、粋な計らいにより車で目的地まで連れて行ってくれた。場所の雰囲気もあるがマテリアルの何とも言えない質感、「木の葉」と呼ばれる所以の屋根の構造、シンプルな設計の中に、凝縮されたこだわりを目の当たりにした。

旅を通して

他にヴァルスにあるスパにも入ってきたが、撮影不可なのが惜しい。この旅ではズントーだけではなく、巨匠と呼ばれる方たちの作品を一気に見ることが出来た。建築を越えた空間の豊かさを毎日感じたので、確実に今後の設計に影響し、表現の幅を拡げてくれるものとなるであろう。また街全体には、都市と公共交通の一体感および充実感を感じた。修士論文では新交通に伴う駅および都市の見直しをテーマに行うので、存分に研究へフィードバックできる旅になったと思う。



渡辺 隼 Jun Watanabe

1991 神奈川県生まれ
2009 神奈川県立湘南台高等学校卒業
工学院大学工学部建築系学科 入学
2013 工学院大学工学部建築学科環境建築コース 卒業
工学院大学大学院工学研究科建築学専攻(飯島研究室)
2015 株式会社パウハウス丸栄 入社
将来の夢 内部(インテリア)と外部(建築)を横断したデザインをしたい。

千葉学建築 計画事務所 時代の仕事

森 元気

千葉学建築設計事務所が公募を勝ち抜いて竣工した八王子キャンパス総合教育棟は、2014年に村野藤吾賞を受賞した。忙しい事務所勤めで得たものは何か。独立の節目にこれまでの日々を振り返った。



1枚の壁による文節から、2枚の壁とその隙間によって場所を生む住宅の計画

最後の一言

2014年の5月に、私は5年間勤めた株式会社千葉学建築計画事務所(以後、事務所と呼ぶ)を退職した。私は2004年に工学院大学を卒業してからの10年間のうち、およそ半分の時間をそこで過ごしたことになる。

事務所での5年間を担当プロジェクトごとに駆け足に振り返るのも良いが、その濃密だった時間ゆえに、漠然とした内容に終始してしまう嫌いもあるので、具体的な担当プロジェクト等の説明は割愛する。

ここでは千葉から最後に贈ってもらった「さぼるな」という一言を、当時は漠然と受け取っていたことから、事務所時代を振り返りながら整理してみたいと思う。

事務所での日々

事務所のプロジェクトは基本的に担当スタッフが案を持ち寄り、千葉との打ち合わせを行っていく。諸条件を整えながら打ち合わせを繰り返していくことで、ようやく一つの案が浮上してくるが、そ

んな案も検討の密度を高めていくと具合の悪い部分がしばしば現れてくる。そのような場合は一度その案から離れ、振り出しに戻って新たな案の検討を始める。この繰り返しの作業は、時には徐々に、時には一気に最終的な案へと向かっていくのだが、どこに着地点があるかなど誰にも分からず、徹底的に積み上げ続けていく。

これは設計段階だけに限った事ではなく現場でも同様の状況である。実施設計までに決めてきたことは一度括弧に入れ、現場でもあらゆる可能性を検討していく。だから現場ではただ監理すれば良いということではなく、無数の検討事項を矢継ぎ早に行っていくながら、スケジュールに納めていかなければならない。基本設計から現場監理まですべての段階において、様々な検討を行っていった帰結として、建築物は竣工を迎えることが出来る。

実務の仕事以外にもコンペやプロポーザルは突然やってくる。自らの担当プロジェクトがどのような段階でもお構いな

夫婦それぞれの趣味を掛け合わせて出来た、小さな増築の計画



しである。

事務所では参加条件を満たせるならば、どのような状況でもコンペに参加する。

コンペ開始から提出までおよそ1ヶ月程度の期間を要するのだが、提出1週間前ともなれば、打ち合わせは毎日、ときには1日に複数回行う。千葉が事務所不在の場合は、メールにて随時やりとりをするのももちろんだが、千葉の予定の隙間を見計らい、駅の喫茶店などで打ち合わせを行ったこともある。提出前日もなれば事務所はさながら祭りの様相となる。打ち合わせテーブルには何十枚と印刷された配色の異なる提出シートが溢れ、参考資料等もいたるところに転がっている。パソコンのデスクトップは整理しきれないデータによって埋め尽くされ、担当者は妙な高揚感のようなものを抱きながら、残りの時間を最後まで突っ走っていくのである。

これから

日常的にこのような活動が繰り返されてきたわけだが、ここで書きたいこと

はただ過酷な時間を費やしてきたということではない。

これらの日々は自らが行動すること、自らを疑うこと、そして自らを信じて、そんな何とも根源的な振る舞いを徹底的に身体化させていく5年という時間だったように思う。そしてこのことを千葉はこれからも「さぼるな」と言ったのではないかと、少なからず自分はそのように受け取ってみたいと思う。

いわゆる建築家的な仕事ではなく、どのように計画していくか悩ましい部分が少なからずあった。しかし、じっくりと状況に向き合ってみると、資産価値でしか差異を持つことが出来ない定式化したインテリア空間だからこそ、自らを介在させることで新たな価値基準を生み出せるのではないかと考えた。

まだまだ建築家として駆け出したばかりで、今後様々な状況に直面していくことは容易に想像できるわけだが、この千葉事務所での5年間を糧として精進していきたい。



既存を活かす、躯体を現す、新設を付加する、この3つの方法を状況に応じて展開した改修計画



森 元気 Genki Mori

1981 神奈川県生まれ
2000 神奈川県立大原高等学校 卒業
2004 工学院大学工学部建築学科(初田研究室)卒業
2008 法政大学大学院工学研究科建設工学建築学領域 修士SDREVIEW2008 入選
2014 株式会社千葉学建築計画事務所 退所
森元気建築設計事務所主宰

雑景ブリコラージュ

佐藤 浩介

建築を学ぶと、都市を俯瞰で眺める能力と、細部を詳細に観察する能力が身につく。その視点を活かせば、建築家になるだけが能ではない。アーティストとして、風景を、人生を組み替える方法をひもとく。



場所と時間がつくり出す何気ない風景が着想源になる。そのため常にどこか歩き回っている

新たな意味の読み替え

大学院での2年間、「ブリコラージュ」というものづくりの手法の研究に終始した。この聞き慣れない単語はフランス語で「器用仕事」と訳される。

私はブリコラージュの有用性に惹かれている。身の回りにあふれる機能や価値を失ったもの—「世の中の余りもの」に注目し、何らかの操作を加えることによってその意味を変えてしまう。また、組合せや用いる場所を工夫することで、ごみだと思って捨てるしかなかったようなものが再び生氣を取り戻し、今までとは別の役割や価値を伴った新たな集合体として機能し始める。修士論文作品では建築や都市に適用する手法を考え、デモンストレーションとしての建築作品を提案した。

私のテーマは東急東横線渋谷～代官山間の廃線になった高架線路という象徴的

な「世の中の余りもの」をブリコラージュを通してどう読み替えていくか、ということだった。建築が計画的に完成されたものであるのに対して、ブリコラージュは特異性や雑然性という一種の空間的な豊かさに加えて時間や都合の変化を受け入れる点において優れていたと思う。

提案と発表を通して実感したのが、一見難解で認知度の低いブリコラージュだが作品にして説明すると意外と納得してもらえるという点である。このような概念があることを何か創造的なやり方で人に伝えていくことを生業にしたいと思った。何しろ「衣・食・住」において日々の生活で当たり前だと思っている組合せを少し変えてみるだけで独自性と創造性を同時に獲得できるのだから、たくさんの人に「組み合わせ」を意識してみたいと思ったのだ。

初めての個展

卒業後、大学院での研究とは立場を少し変えて、提案される側の目に直に働きかける作品を模索することにした。そこで、修士設計の演習として制作していた平面作品を発展させていく形で「身の回りの何気ない風景の面白さ」をブリコラージュを用いて表現してみた。制作テーマに対して、スケール感やモチーフなどをフレキシブルに表現するべく「風景」という言葉を選んだ。主な画材はアクリルやパステルで、モデルとなった場所で拾ってきたもの（『風景によるサイン』と命名した）や、そこにあったものの「代わり」になるイメージ（印刷物の紙片や金属片など）、石膏や漆喰など場所を表現できるものをかき集め、「材料」として使い、キャンバスや木製パネルに展開していく。場所選びも構図や材料の考案も画法の研究も独学で進めたため、公募展では異色の作品として多くの方々からコメントやアドバイスを頂くことができた。そして今回、ギャラリーのご厚意により「雑景ブリコラージュ展」として初めての個展が実現し、次に繋がる大変貴重な機会となった。

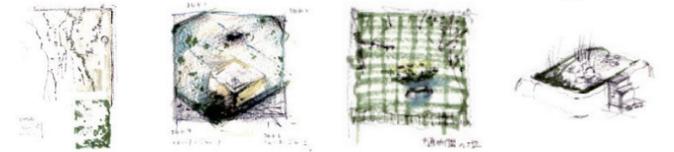
建築設計そのものに携わらずとも、工学院大学で建築を学んだことが作品づくりの源泉として、また個性を形作るものとして着実に役立っていると思っている。

展示の様子。アートスペース88 kunitachi（国立市）にて2014年11月27日～12月9日の会期で開催された



Kosuke SATO 1st Solo Exhibition

the BRICOLAGE of Casual Scenery



個展のリーフレットより

アトリエ兼自室の様子



修士論文作品『“試行建築”-ブリコラージュによる設計手法の研究』上「2020年、ヒカリエから廃線になった高架線路の俯瞰図」下「断面図」



佐藤 浩介 Kosuke Sato

- 1987 東京都生まれ
- 2006 都立三鷹高校 卒業
- 2011 工学院大学工学部建築都市デザイン学科谷口研究室 卒業
- 2013 工学院大学大学院修士課程谷口研究室 修了
リキテックスアートプライズ一般審査賞、ART販売賞
- 2014 第2回大東建託賃貸住宅コンペ 最優秀賞（加藤直樹と共作）
- 第23回三菱商事アート・ゲート・プログラム入選
汎美展（春季）出展
- 2015

MUTOH

MUTOHなら安心です。

あらゆる設計現場で、高い信頼性と納入実績を誇るMUTOHの設計製図ツールは、教育の現場でも活躍してくれます。



AutoCAD
デファクトスタンダードの設計ソフトである**AutoCAD**は、パワフルで柔軟な機能により、身のまわりにあるさまざまなものを設計し、形にできます。



AutoCAD LT
ドラフティングと詳細図作成のための**AutoCAD LT**は、2D図面の作成、コラボレーション、生産性向上に必要なツールを提供します。

※弊社はAutoCADも取り扱っています。

LINER BOARD

UM-06N5

建築士
受験用

最大適応製図用紙サイズ：A2
製図板サイズ：A2 (451x604mm)
ゆとりの製図範囲と高精度・高操作性のコンパクトな軽量型平行定規。

精度は、設計製図機械「ドラフター」譲りで万全です。随所に、図面を汚さない「スケールフローティング機構」や厚紙にも対応可能な「ダブルヒンジ機構」など、基本性能にも妥協を許さない親切設計。

MUTOHならではのノウハウを凝縮したA2サイズ平行定規です。



一級・二級建築士受験用平行定規

株式会社 **ムトー エンジニアリング** 東京都世田谷区池尻3-1-3 〒154-8560 TEL(03)6758-7130 FAX(03)6758-7139

FUJITA'S FUTURE

未来は大きな可能性に満ちた希望の世界です。過去は今を創り、今は未来を創る原動力。フジタは、築き上げた総合力をもって、次の時代に柔軟に対応していきます。建設を基盤とした豊かな環境づくりへ。フジタは、いま、人と地域と自然がひとつにつながる、“高”環境づくりを目指します。子供たちとその子供たちがのびのびと生きていける快適な環境を創造するために。

たゆまず、未来をつくる。フジタ



創立 60周年
Anniversary 1955-2015

one for all, all for one
私たちは共に建築をつくる仲間を求めています。



株式会社 **INA 新建築研究所**
Institute of New Architecture

専務取締役 箱谷 勝美 建築学科 1973年卒業
人事担当：中根 恭 03-5802-3211



FUJITA
Daiwa House Group®

次の100年へ

| 建設業 | |
|--------------------|--------------|
| 商号又は名称 | 株 |
| 代表者の氏名 | 代 |
| 監理技術者の氏名 | 株 |
| 登録名 | 登録者証 交付番号 |
| 一般建設業又は 特定建設業の別 | 特 |
| 許可を受けた建設業 | 業 |
| 許可番号 | 国 |
| 許可年月日 | 日 |

構造計算適合性判定のご指名は 建築構造センターへ！！

信頼

過去11,980件の
判定実績が信頼の証です。

※平成19年8月～
平成27年1月までの判定件数

迅速

的確な審査業務により、
判定日数短縮を図ります。

充実

26都県の判定が
15事務所で行えます。



判定エリア・事業拠点

中国エリア

| | | |
|-----|-------|------------------|
| 鳥取県 | 山陰事務所 | TEL:0852-60-0144 |
| 島根県 | 岡山事務所 | TEL:086-206-3310 |
| 岡山県 | 広島事務所 | TEL:082-836-4111 |
| 広島県 | | |

四国エリア

| | | |
|-----|-------|------------------|
| 徳島県 | | |
| 香川県 | | |
| 愛媛県 | 愛媛事務所 | TEL:089-913-6555 |
| 高知県 | | |

北関東・首都圏エリア

| | | |
|------|--------|------------------|
| 茨城県 | | |
| 栃木県 | | |
| 群馬県 | | |
| 埼玉県 | 埼玉事務所 | TEL:048-799-3016 |
| 東京都 | 本社 | TEL:03-6413-5777 |
| 神奈川県 | 神奈川事務所 | TEL:045-534-7773 |

東海エリア

| | | |
|-----|-------|------------------|
| 愛知県 | 愛知事務所 | TEL:052-253-7733 |
|-----|-------|------------------|

九州・沖縄エリア

| | | |
|------|--------|------------------|
| 佐賀県 | 佐賀事務所 | TEL:0952-37-7588 |
| 長崎県 | 長崎事務所 | TEL:095-829-5222 |
| 宮崎県 | 宮崎事務所 | TEL:0985-73-9477 |
| 鹿児島県 | 鹿児島事務所 | TEL:099-299-1203 |
| 沖縄県 | 沖縄事務所 | TEL:098-878-3501 |

平成27年度は長野、千葉事務所開設予定！
全事務所で判定員、建築士の方を募集しております。
本社管理本部(03-6413-5777)までご連絡お待ちしております。



指定構造計算適合性判定機関

株式会社 建築構造センター

| | |
|---------|----------------------|
| 代表取締役社長 | 田野邊 幸裕 (建築学科 昭和44年卒) |
| 取締役 | 平野 久雄 (建築学科 昭和41年卒) |
| 取締役 | 鈴木 宏夫 (建築学科 昭和44年卒) |
| 監査役 | 谷口 宗彦 (建築学科 昭和44年卒) |

本社 〒160-0022
東京都新宿区新宿1-8-1
大橋御苑駅ビル6階
TEL:03-6413-5777(代表)
FAX:03-3350-1261
E-mail:kkc-info01@kozocenter.co.jp
URL:http://www.kozocenter.co.jp

重要なのは「今」の試験の合格実績

平成25年度も 合格者数No.1



試験内容の見直しや新傾向問題の増加等、常に試験は進化しています。
総合資格学院の合格実績は、常に「今」の試験の結果。
この実績こそ、「今」の試験に総合資格学院が、完全対応していることの証明です。

平成25年度 1級建築士 設計製図試験

全国 [平成25年度] 学科+製図合格
No.1
ストレート合格者占有率

全国 学科・製図ストレート合格者 占有率

全国ストレート合格者の
およそ3人に2人は
当学院の現役受講生!!
全国ストレート合格者1,714名中/1,086名

63.4%

1級建築士を1年で取得するなら総合資格学院

※学科・製図ストレート合格者とは、平成25年度1級建築士学科試験に合格し、平成25年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。※全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表による。 <平成25年12月19日現在>

平成25年度 2級建築士 設計製図試験

当学院教室開講都道府県ストレート合格者のおよそ2人に1人は当学院の現役受講生!!

当学院教室開講都道府県
学科・製図ストレート合格者
(平成25年度 学科+製図合格) 占有率

45.4%

2級建築士を1年で取得するなら総合資格学院

当学院教室開講都道府県ストレート合格者2,999名中/1,363名
※学科・製図ストレート合格者とは、平成25年度2級建築士学科試験に合格し、平成25年度2級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 <平成25年12月5日現在>

平成25年度 宅建本試験

当学院基準達成 現役受講生 合格率

82.9%

8割出席・8割宿題提出・公開統一模試得点率8割以上
現役受講生 252名中/合格者 209名
<平成25年12月4日現在>

平成26年度 1級建築施工管理技術検定学科試験

当学院基準達成 現役受講生 合格率

88.1%

8割出席・8割宿題提出
現役受講生 286名中/合格者 252名
<平成26年7月25日現在>

工学院大学

平成25年度 1級建築士 設計製図試験

当学院利用率

卒業合格者102名中、**58名**が当学院の
講座を利用して合格されました!

56.9%

法人サポート サービス

それぞれの企業のニーズに合わせて、各種サービスを実施しています。
詳しくは下記までお気軽にお問合せ願います。

各種合格ガイダンス

1級・2級建築士、宅建など、各種資格試験の概要や、最新傾向、学習方法を徹底解説します。

Web学習サービス
インターネットを利用した当学院のWeb学習サービスで、多様な中での効率的な学習環境をご提供します。

模擬試験・社内講習会

当学院が作成した模擬試験により、社員の学習レベルを診断。さらに社内講習会により、試験対策指導を行います。

有資格者育成オリジナルプラン
それぞれの企業のニーズに合わせた、社員教育のプランをご提案させていただきます。

新卒採用支援

当学院が発行する建設業界向けの採用情報誌により、企業と学生との橋渡しを行います。

顧客取り寄せサービス
面倒な受験願書の取り寄せを当学院が代行します。部署ごとなどのお取りまとめも承ります。

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

開講講座

* 1級建築士 * 2級建築士 * 構造設計1級建築士 * 1級建築施工管理技士 * 2級建築施工管理技士
* 1級土木施工管理技士 * 2級土木施工管理技士 * 宅地建物取引士 * インテリアコーディネーター

法定講習

* 一級・二級建築士定期講習 * 管理建築士講習 * 第一種電気工事士定期講習
* 監理技術者講習 * 宅建登録講習 * 宅建登録実務講習

総合資格学院

お問合せやご相談、講座に関する資料請求は下記までお電話いただくか、当学院ホームページでも受け付けています。

<http://www.shikaku.co.jp> 総合資格 検索

| | | | | |
|--------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 札幌校 TEL.011-219-3511 | 柏校 TEL.04-7168-9111 | 富山校 TEL.076-439-1011 | 京橋校 TEL.06-6882-8211 | 高松校 TEL.087-811-2011 |
| 盛岡校 TEL.019-604-7651 | 北千住校 TEL.03-5284-3911 | 金沢校 TEL.076-237-6811 | なんば校 TEL.06-6648-5511 | 徳島校 TEL.088-657-7361 |
| 仙台校 TEL.022-217-8421 | 新宿校 TEL.03-3340-5671 | 福井校 TEL.077-222-9311 | 堺校 TEL.072-222-9311 | 松山校 TEL.089-947-2611 |
| 山形校 TEL.023-615-2911 | 上野校 TEL.03-3832-7201 | 岐阜校 TEL.058-277-3701 | 神戸校 TEL.078-241-1711 | 天神校 TEL.092-716-2081 |
| 郡山校 TEL.024-921-0041 | 池袋校 TEL.03-3982-8211 | 小倉校 TEL.055-930-2621 | 姫路校 TEL.079-224-1411 | 小倉校 TEL.093-522-7511 |
| 水戸校 TEL.029-300-4721 | 五反田校 TEL.03-3495-8671 | 静岡校 TEL.054-275-3311 | 奈良校 TEL.0742-30-1511 | 久留米校 TEL.0942-36-7141 |
| つくば校 TEL.029-860-3771 | 吉祥寺校 TEL.0422-23-6011 | 浜松校 TEL.053-456-2211 | 岡山校 TEL.086-235-5901 | 佐賀校 TEL.0952-27-9861 |
| 宇都宮校 TEL.028-614-4881 | 立川校 TEL.042-524-7841 | 名古屋校 TEL.052-202-1751 | 倉敷校 TEL.086-430-4711 | 長崎校 TEL.095-816-3611 |
| 前橋校 TEL.027-290-2311 | 町田校 TEL.042-724-3061 | 小牧校 TEL.0568-42-1211 | 福山校 TEL.084-991-3811 | 大分校 TEL.097-540-6281 |
| 太田校 TEL.0276-47-1051 | 横浜校 TEL.045-316-6811 | 岡崎校 TEL.0564-57-8161 | 広島校 TEL.082-542-3811 | 熊本校 TEL.096-212-6811 |
| さいたま校 TEL.048-642-9811 | 川崎校 TEL.044-850-3411 | 豊橋校 TEL.0532-57-0311 | 鳥取校 TEL.0857-36-9511 | 鹿児島校 TEL.099-239-5711 |
| 越谷校 TEL.048-990-6971 | 厚木校 TEL.046-297-0511 | 津校 TEL.059-238-0711 | 松江校 TEL.0852-59-5411 | 沖縄校 TEL.098-866-8311 |
| 川越校 TEL.049-291-5211 | 藤沢校 TEL.0466-55-2611 | 四日市校 TEL.059-359-0711 | 山口校 TEL.083-974-4011 | |
| 熊谷校 TEL.048-599-3531 | 新潟校 TEL.025-242-2811 | 草津校 TEL.077-566-6911 | | |
| 船橋校 TEL.047-425-8941 | 長岡校 TEL.0258-32-0211 | 京都校 TEL.075-253-0481 | | |
| 千葉校 TEL.043-290-7341 | 長野校 TEL.026-268-0811 | 梅田校 TEL.06-4709-8111 | | |
| 成田校 TEL.043-290-7341(千葉) | 甲府校 TEL.055-230-1411 | 新大阪校 TEL.06-6101-1911 | | |

OPEN予定 和歌山校・天王寺校・木更津校

※当学院各校一覧は、平成26年12月現在のものです。最新情報は当学院HPをご覧ください。

フランス建築探訪！

「古市公威とパリ」
「ジャン・プルーヴェ再考」

2016年3月31日発行予定

NICHE 編集部

鈴木敏彦（編集長）、大塚篤、大場光博、香川浩、楠昭、
澤崎宏、柴田卓次、高木雅行、谷口宗彦、中島智章、
西川豊宏、濱田昭夫、平井充、類洲環

工学院大学建築学部同窓会誌

NICHE2015 vol.38 ダイジェスト版

発行日 2015年3月31日

発行 工学院大学建築学部同窓会 会長 澤崎宏

所在地 〒163-8677

東京都新宿区西新宿 1-24-2

電話 03-3342-1211（代）

編集・制作：株式会社 ATELIER OPA

印刷製本：研精堂印刷株式会社

建築学部同窓会年会費

郵便振込 ￥4,000-

VISAカード引き落とし ￥3,000-

NICHE広告出稿のご案内

1. 掲載

工学院大学建築学部同窓会誌

NICHE2016 vol.39ダイジェスト

2. 発行日、発行部数

2016年3月31日 20,000部

3. 広告掲載料

<カラーページ>

A. 表紙裏 1P ￥170,000-

B. 表紙裏の対向 1P ￥150,000-

C. 裏表紙の内側 1P ￥150,000-

D. 中面 1P ￥100,000-

<モノクロページ>

E. 中面 1P ￥80,000-

F. 中面 1/2P ￥40,000-

※消費税を別途申し受けます。

4. 申込締切

2015年10月31日

5. サイズ

天地270mm×左右210mm

6. 広告データ入稿締切

2015年12月15日

7. お申込・お問い合わせ先

工学院大学建築学部

鈴木研究室：鈴木敏彦

〒163-8677 東京都新宿区西新宿 1-24-2

e-mail：suzuki@atelier-opa.com

電話：03-3342-1211（代）

※申込書が必要な方はご連絡ください。

BACK NUMBER

アマゾンからお買い求めいただけます。



NICHE mook 01

特集 世界に羽ばたけ！

イギリスハイブリット留学2013

ミラノ工科大学国際交流2011-2013

2014年3月31日第1刷発行

214ページ永久保存版

特集130ページ、日英バイリンガル

ISBN 978-4-907469-00-9

定価：本体1,200円＋税にて発売中

NICHE（ニッチ）

「ニッチ」とは、イタリア語では「ニッキア」(nicchia) とい
い、フランス語の「ニージュ」(niche) を経て、同じ綴りの
まま英語の「ニッチ」となった。日本語では「壁龕(へきがん)」
という。古典主義建築のファサードや壁面に施された窪みを意
味する。ラテン語の「巣」を意味する「ニドゥス」(nidus) に
由来するという説や、半球形となっている頂部が貝殻模様で装
飾される場合もあることから貝殻を意味するイタリア語「ニッ
キオ」(nicchio) を結びつける説もある。この空間には古代
ギリシア・ローマ神話の神々やニンフ、ローマ皇帝などの彫像
が置かれた。転じて、教会堂内における聖体(キリストの血と
肉であるワインとパン) を置く同様の空間や、近世の宮殿や貴
族住宅における寝台を収めるアルコーヴを指すようになった。
『NICHE』という書名には、大学の知的資源が溢れ出る窪みで
ありたいという願いを込めている。